

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

MSM に対する有効な HIV 検査提供と
ハイリスク層への介入に関する研究

令和 2 年度 ～ 令和 4 年度 総合研究報告書

研究代表者 塩野 徳史

大阪青山大学

令和 5(2023)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究
総合研究報告書

目 次

I. 総合研究報告

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究……………1
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）

II. 分担研究報告

1. 北海道における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………24
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）、他

2. 東北における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………29
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）、他

3. 首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………34
金子典代（名古屋市立大学看護学部）、他

4. 東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………43
金子典代（名古屋市立大学看護学部）、他

5. 近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………50
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）、他

6. 中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………56
和田秀穂（川崎医科大学）、他

7. 九州における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………62
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）、他

8. 沖縄における MSM に対する検査提供と介入の効果評価……………67
健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、他

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ……………71

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究

研究代表者 塩野徳史 大阪青山大学健康科学部看護学科 准教授

研究要旨

研究目的

ゲイコミュニティが存在し、当事者を中心とした CBO と行政、医療者、研究者との協働体制が構築されている地域、あるいはその可能性が高い地域(北海道、東北、東京都・神奈川県・首都圏、愛知県・東海、大阪府・近畿、岡山県・中国、愛媛県・四国、福岡県・九州、沖縄県)で、より感染リスクの高い層やこれまで介入が届きにくかった層を対象とした検査機会を提供することとしていたが、自粛の影響をふまえ、保健所などの検査機会の現状を共有し、各地域で新たなに有効な検査手法を検討し、その効果評価の体制を整備することとした。特に令和 2 年 2 月からの新型コロナ感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。そこで各地域では、郵送検査キットを配布する取り組みを開始した。各地域の状況に合わせて、対面配布と WEB 配布する方式を組み合わせて実施した。

研究結果の概要

初年度、各地域の連携のもと、郵送検査キットを 1,053 キット配布し、受検者アンケートに回答した人は 1,048 人であった。このうち実際に利用した人は 769 人であり、配布数に占める利用者の割合は 73.0%であった。このうち、結果画面を視認したと考えられる人は 736 人(95.7%)であった。新規の HIV 陽性率は推定で 1.8%、新規の梅毒陽性率は推定で 5.6%であった。重複感染は 4 人であった。

2 年度目には郵送検査キットを 1,893 キット配布し、受検者アンケートに回答した人は 1,915 人であった。このうち実際に利用した人は 1,305 人であり、配布数に占める利用者の割合は 68.9%であった。このうち、結果画面を視認したと考えられる人は 1,259 人(96.5%)であった。新規の HIV 陽性率は推定で 0.9%、新規の梅毒陽性率は推定で 7.1%であった。重複感染は 6 人であった。

最終年度は、郵送検査キットを 2,067 キット配布し、受検者アンケートに回答した人は 2,058 人であった。このうち実際に利用した人は 1,537 人であり、配布数に占める利用者の割合は 74.4%であった。このうち、結果画面を視認したと考えられる人は 1,506 人(98.0%)であった。新規の HIV 陽性率は推定で 1.5%、新規の梅毒陽性率は推定で 10.3%であった。重複感染は 13 人であった。

検査キットを利用後のアンケート解析では、セクシャリティについて WEB 配布の方が、対面配布よりバイセクシュアルの割合が高かった。居住地は、対面配布より WEB 配布の方が農村・漁村・山間部の占める割合が高かった。採血の困難感については、「難しかった」と回答したものは、対面配布と WEB 配布で差が見られた。また

自由記載を満足度別に分析し、カテゴリー分けを行った。匿名、自身で好きな時に、時間に縛られず実施できたことに満足感をみいだしていたと考えられる。一方、採血量を規定量出す難しさや、緊張、恐怖感があったとの意見もみられた。今後も利用したいとの声が多数みられ、一部自己負担であっても利用したい、他の検査項目もあればありがたいとの声もみられた。

その他、保健所以外の検査機会としては東海、近畿、中四国、沖縄地域でクリニックと協働した検査キャンペーンを実施した。

東海では初年度 31 人、2 年度目 57 人、最終年度 43 人であった。その結果、HIV 陽性は初年度が 1 人、2 年度目が 2 人、最終年度が 3 人、梅毒陽性は初年度が 9 人、2 年度目が 12 人、最終年度が 11 人であった。

近畿では初年度 I 期 224 人・II 期 126 人、2 年度目は I 期 120 人・II 期 113 人、最終年度は I 期 134 人・II 期 131 人が利用した。その結果、HIV 陽性は初年度が I 期 4 人・II 期 1 人の計 5 人、2 年度目が I 期 2 人・II 期 2 人の計 4 人、最終年度が I 期 0 人・II 期 1 人の計 1 人であった。梅毒陽性は初年度が I 期 42 人・II 期 28 人の計 70 人、2 年度目が I 期 30 人・II 期 21 人の計 51 人、最終年度が I 期 33 人・II 期 38 人の計 71 人であった。B 型肝炎陽性は初年度が I 期 4 人・II 期 1 人の計 5 人、2 年度目が I 期 0 人・II 期 1 人の計 1 人、最終年度が I 期 2 人・II 期 2 人の計 4 人であった。

岡山では 2 年度目夏季 31 人、冬季 25 人の利用があった。最終年度は 96 人の利用があり、HIV 陽性 6 人、梅毒陽性 21 人であった。

沖縄では初年度は 46 人が予約し 39 人が、2 年度目は 78 人が予約し 26 人、最終年度は 46 人が予約し 25 人利用した。その結果、HIV 陽性は初年度が 0 人、2 年度目が 1 人、最終年度が 0 人、梅毒陽性は初年度が 2 人、2 年度目が 0 人、最終年度が 0 人であった。

また大阪ではコミュニティセンターで検査を年 6 回実施し、令和 2 年度 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人 (0.9%)、梅毒陽性者 15 人 (13.2%) であった。令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人 (1.4%)、梅毒陽性者 20 人 (13.9%) であった。最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加した。HIV 新規陽性者 1 人 (0.6%)、梅毒陽性者 8 人 (4.7%) であった。

ゲイコミュニティ当事者を中心とした CBO と協働して介入することで感染リスクの高い層に予防啓発としての検査機会を提供できることを示した。予防行動の促進と共に HIV 抗体検査に対するハードルを下げる、持続可能な介入モデルを開発できたことは、ウィズコロナ社会における意義は高いと考える。

研究分担者氏名

(所属研究機関名及び所属研究機関における職名)

研究 4 金子典代(名古屋市立大学看護学部
准教授)

研究 6 和田秀穂(川崎医科大学 教授)

研究 8 仲村秀太(国立大学法人琉球大学
大学院 医学系研究科 助教)

A. 研究目的

日本では MSM(men who have sex with men)におけるエイズ対策として、全国 6ヶ所のコミュニティセンターが設置され、当事者性を活用し、HIV 抗体検査の自発的な受検勧奨を推進しており、MSM における受検割合は 7 割程度まで上昇している。一方で、現状の検査体制では対応できていない未診断感染者が一定程度存在することが指摘されている。世界では ART 普及の効果について、UNAIDS 主導でケアカスケード分析がおこなわれ、各国のエイズ対策の柱となっている。また、ART の早期導入は、HIV 感染症の生命予後が著しく改善されるだけでなく、パートナーへの感染予防効果も示され、「U=U」としてメッセージは広がり、HIV 感染症に対する恐怖やスティグマの低減に加え、受検行動にも影響を与えることが示唆されている。

日本の現状は、感染者の診断率が 6 割から 8 割程度と報告されており、達成目標である 9 割に届いていない。エイズ動向委員会の報告では、新規 HIV 感染報告における感染経路の 7 割は男性同性間の性的接触によるもので、加えて新規感染報告数に占める AIDS 患者割合が約 3 割であり、早期受検、早期治療の重要性をふまえると、MSM における HIV 抗体検査の受検勧奨は必須である。

CBO(Community based organization)が主体的になって取り組んだ検査事業では、陽性割合が保健所より高く、県レベルでの新規感

染報告数に占める AIDS 患者割合の減少がみられるなど、一定の成果を得てきたが、日本全体に影響を及ぼすには、提供できた検査機会が少ない。また、感染リスクの高い層には性行動が活発な人、未受検者や薬物使用者が内包され、都市部と地方の実態も異なる。先行研究では介入認知群の受検割合は 9 割に到達しつつあるが、非認知群では 5 割程度と低いことも明らかとなった。MSM では、これまでの介入が届きにくい層が存在しており、新たな知見を活用し、今後は、感染リスクの高い層に焦点をあてた介入を積極的に展開していく必要がある。加えて今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、新型コロナウイルス感染症の影響で、MSM の検査機会も減少し、エイズ発症割合も増加している。またコミュニティセンターの開館時間も大幅に短縮となり、ゲイ向け商業施設やイベントも激減し、啓発普及の変更を余儀なくされた。一方で保健所等の検査機会も縮小する場合も多く、潜在的な HIV 検査ニーズは高まっていた。郵送検査には自宅都合の良い時間に受けられるメリットもあるが、支援や情報提供が不足しがちになるデメリットもある。そのため本研究では、6 箇所のコミュニティセンターを中心に日本 9 地域で郵送検査やクリニック・診療所での検査を活用し、三密を避けながら保健所以外の場所で、検査を受けられる方策の整備および受検者アンケート体制の構築、オールジャパン統一で広報体制を構築することを目的とした。

B. 研究方法

ゲイコミュニティが存在し、当事者を中心とした CBO と行政、医療者、研究者との協働体制が構築されている地域、あるいはその可能性が高い地域(北海道、東北、東京都・神奈川県・首都圏、愛知県・東海、大阪府・近畿、岡山県・中国、愛媛県・四国、福岡県・九州、沖縄県)で、より感染リスクの高い層やこれまで介入が届きにくかった層を対象とし

た検査機会を提供することとしていたが、自粛の影響をふまえて保健所などの検査機会の現状を共有し、各地域で新たに有効な検査手法を検討し、その効果評価の体制を整備した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響をふまえて、保健所などの検査機会の現状を共有し、各地域で新たな有効な検査手法を検討した。郵送検査やクリニック検査等、CBOが介在する保健所以外の検査機会利用前後には無記名自記式のアンケート調査をWEB上および紙面で実施し、その後の結果と一致させ、効果評価を行うことにした。

啓発介入で展開する検査提供が、意図した対象に提供されていたかを評価するために、受検機会を利用した人を対象に質問紙調査の準備を進め、受検経験・性行動などの受検者特性の把握および地域間比較、一部地域では保健所受検者との比較、初期の診断状況を把握する仕組みを検討した。データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 23(Windows)を用いた。有意水準を5%未満とした。

(倫理面への配慮)

本研究は大阪青山大学倫理委員会、また研究分担者や研究協力者所属の研究機関に組織される倫理委員会の承認を得て実施される。ゲイ・バイセクシュアル男性やHIV陽性者は社会からの偏見・差別が強くこれらの点についての配慮が必要である。このため本研究では各地域の当事者を中心とした9地域のCBOやゲイコミュニティのキーパーソン、HIV陽性者当事者団体および支援団体と連携し、意見聴取を行いつつ、調査方法や介入内容を検討し、対象者が本研究参加によって性的指向や感染の有無による差別や偏見を受けないように配慮した。

本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、

デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中での中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。結果判明後の診療・支援体制についても保健所と同等の環境を整備した上で研究を実施する。また研究結果については、関連学会や出版物などで個人が特定されないように処理したデータの分析結果のみを公表することを説明する。

C. 研究結果

本報告では、各地域で取り組まれた保健所以外の検査機会の拡大における取り組みについて報告する。

研究1 北海道におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

北海道地域で、にじいろほっかいどうとレッドリボンさっぽろの2つの団体が協働し、かつ他地域ともMSM ALL JAPAN.での協働体制を活用し、ゆうそう検査キットの配布を実施した。新型コロナ感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、対面配布とWEB配布の両方で試行した。

初年度に100キット、2年度目に217キット、最終年度に229キットの配布ができ、総計で546キット配布した。

その結果、HIV陽性件数は初年度が2件、2年度目が3件、最終年度が2件（総計で7件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が15件、2年度目が25件、最終年度が26件（総計で66件、16.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、91.1%~98.3%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で3名であった。

研究2 東北におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

広域地域である東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キッ

トをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 172 キット、2 年度目に 206 キット、最終年度に 153 キットの配布ができ、総計で 531 キット配布した。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 1 件、最終年度が 2 件（総計で 5 件、1.3%）、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 13 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、8.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~97.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 1 名であった。

研究 3 首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

東京地域では、対面とディスプレイを活用した検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し検査を受けたことがないものに対しては、不安を軽減する工夫を実施した。

初年度に 95 キット、2 年度目に 387 キット、最終年度に 499 キットの配布ができ、総計で 981 キット配布した。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 6 件、最終年度が 6 件（総計で 13 件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が 15 件、2 年度目が 37 件、最終年度が 65 件（総計で 117 件、15.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.7%~99.2%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 3 名であった。

神奈川地域では、貸し会議室等の配布会場

を借りるなど密を避けて受付対応を行った。

初年度に 160 キット、2 年度目に 174 キット、最終年度に 225 キットの配布ができ、総計で 559 キット配布した。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 3 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 10 件、2.2%）、梅毒の陽性件数は初年度が 27 件、2 年度目が 24 件、最終年度が 33 件（総計で 84 件、18.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

研究 4 東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。利用者は初年度 31 名（平均 15.5 名）、2 年度目 57 名（平均 19 名）、最終年度 43 名（平均 10.8 名）であった。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件（総計で 6 件、2.1%~11.1%）、梅毒の陽性件数は初年度が 9 件、2 年度目が 12 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、18.8%~33.3%、いずれも既往歴も含む）であった。

ゆうそう検査では、初年度に 79 キット、2 年度目に 75 キット、最終年度に 132 キットの配布ができ、総計で 286 キット配布した。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 0 件、最終年度が 0 件（総計で 2 件、0.0%）、梅毒の陽性件数は初年度が 7 件、2 年度目が 7 件、最終年度が 18 件（総計で 32 件、15.3%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.0%~96.7%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人はいなかった。

東海地域では一貫して行政と HIV、梅毒検査を民間医療で提供する取り組みを協働で実

施した。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよう行政とも連携して進めていくことが望まれる。

ゆうそう検査では WEB 配布と対面配布の両方を実施し、WEB 配布の方が東海地域のみ利用者ではなかったが、初受検の割合も高く、コミュニティセンターの認知も低いことから、リーチしにくい層に届いていた可能性が示唆された。

研究5 近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

大阪地域ではコロナ禍の対応で混乱しつつも、大阪市と協働し、コミュニティセンター dista での検査会『dista でピタッとちえっくん』、大阪府と協働としクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』を継続実施した。

また新たにゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら実施した。大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。初年度に 142 キット、2 年度目に 200 キット、最終年度に 124 キットの配布ができ、総計で 466 キット配布した。

その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 2 件（総計で 6 件、2.6%）、梅毒の陽性件数は初年度が 14 件、2 年度目が 10 件、最終年度が 17 件（総計で 41 件、17.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、96.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

dista でピタッとちえっくんでは令和 2 年度 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人 (0.9%)、梅毒陽性者 15 人 (13.2%) であった。令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人 (1.4%)、梅毒陽性者 20 人 (13.9%) であった。最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加

した。HIV 新規陽性者 1 人 (0.6%)、梅毒陽性者 8 人 (4.7%) であった。

¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんでは、令和 2 年度 I 期が 224 人利用し、HIV 陽性者 4 人、梅毒陽性者 42 人、B 型肝炎陽性者 4 人、II 期は 126 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 28 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。令和 3 年度は I 期が 120 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 30 人、B 型肝炎陽性者 0 人、II 期は 113 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 21 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。最終年度は、I 期が 134 人利用し、HIV 陽性者 0 人、梅毒陽性者 33 人、B 型肝炎陽性者 2 人、II 期は 131 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 38 人、B 型肝炎陽性者 2 人であった。

新型コロナウイルス感染症に伴う自粛や休業に対応しながらのゆうそう検査であったが、他の検査機会を失うことなく、進行した。今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

研究6 中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

中四国地域で、ゆうそう検査キットの配布とクリニック検査を実施した。岡山県では初年度より、中国・四国地域でも 2 年度目よりクリニック検査も継続した。「岡山県もんげー性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」の同時開催とし合計して、2021 年度は 96 名の利用で、HIV 陽性 6 名（陽性率 6.3%）、梅毒陽性 21 名（陽性率 21.9%）の結果となった。

ゆうそう検査キットの配布は WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。初年度に 124 キット、2 年度目に 300 キット、最終年度に 302 キットの配布ができ、総計で 726 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 5 件（総計で 7

件、1.4%)、梅毒の陽性件数は初年度が13件、2年度目が27件、最終年度が31件(総計で71件、14.9%、いずれも既往歴も含む)であった。検体を郵送した人のうち、97.1%~100.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で2名であった。

2019年度が90名の利用で、HIV陽性2名(陽性率2.2%)、梅毒陽性11名(陽性率12.2%)であったことと比較すると、2021年度はコロナ禍であっても受検者数の減少はなく、HIVおよび梅毒ともに受検者の陽性率が高かったことから、保健所等で検査を受けられないあるいは検査控えをしていたMSMに、このクリニック検査の情報が届き検査促進につながったと解釈された。

また、2020年12月までの保健所・拠点病院・クリニックでの受検者アンケートの解析を進めた。2020年度は全国的に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、HIV抗体検査受検者数が減少していると言われている。そのことを受検者動向については、その点をふまえて考える必要がある。

研究7 九州におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

九州地域で、対面型とWEBでの検査キットの配布を組み合わせて実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に104キット、2年度目に186キット、最終年度に193キットの配布ができ、総計で483キット配布した。その結果、HIV陽性件数は初年度が1件、2年度目が3件、最終年度が4件(総計8件、2.4%)、梅毒の陽性件数は初年度が6件、2年度目が19件、最終年度が28件(総計53件、16.5%、いずれも既往歴

も含む)であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~98.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で5名であった。

この3年間でゲイコミュニティ向けのアウトリーチや取り組みが再開し、各地域との連携も復活した。本研究で実施したゆうそう検査機会はHIV陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

研究8 沖縄におけるMSMに対する検査提供と介入の効果評価

クリニック検査の促進に関する研究では、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で県内保健所におけるHIV検査数は激減した。そのため、保健所に替わる新たな検査提供体制の整備が急務である。本年度は、民間医療機関においてHIV・梅毒検査を実施し、HIV検査を希望するMSMのニーズアセスメントと検査促進を行うことを目的とした。対象をMSMとし、沖縄県内の5医療施設で実施した。検査キャンペーン広告を出した。具体的にはMSMが利用するマッチングアプリ、SNS、YouTube、沖縄県ホームページ、nankr 沖縄のホームページ及び、県内新聞社の取材を通じて広報した。にアンケート記入と引き替えにクーポン提供(検査料を1,000円に割引)する内容である。

令和2年度は、募集枠50人に対して46人が応募した。最終的には39人が受診した。HIV陽性は0人、梅毒2人陽性であった。令和3年度は、前年度と異なり本事業の専用予約サイトを立ち上げ、サイト内でアンケート回答をした者へID番号発行し、その後の予約、検査、結果すべてをID番号で行う匿名性が担保された検査を実施した。募集枠80人に対して、78人の応募があり、最終的には26人が受検した。アンケート回収率は97.5%(78/80)であった。99%が日本人で、58

%が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は26%であるが、既検査歴者でも2年以上経過した者は39%であった。過去6カ月間に2人以上の複数のパートナーとセックス歴の有る者は72%であった。PrEP経験者は12%であった。スクリーニング検査結果はHIV陽性1件、梅毒は0件であった。最終年度は、募集枠50人に対して、46人の応募があり、最終的には25人が受検した。アンケート回収率は97.5% (78/80) であった。65%が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は11%であった。PrEP経験者は10%であった。スクリーニング検査結果はHIV陽性0件、梅毒は0件であった。

本島中南部を中心に検査受検者が同じく中南部の医療機関での検査希望を示した。特定の医療機関での検査希望が突出して多く、交通の利便性がその要因として考えられた。コロナ禍において保健所の代替として民間医療機関がHIV検査を安定的に提供できる場として示された一方で、初回検査受検者の割合は少なく、このグループへの検査アクセスを高める対策が必要だと考えられた。PrEPの関心は高く正確な情報提供と同時にHIV検査の動機づけにも活用できると考えられた。

郵送検査の促進に関する研究では沖縄地域で、対面型とWEBでの検査キットの配布を組み合わせて実施した。コミュニティの感性を活かした広報やコミュニティセンターからの情報提供を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB配布については特設サイトを開設して実施できた。

新型コロナ感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に77キット、2年度目に148キット、最終年度に210キットの配布ができ、総計で435キット配布した。その結果、HIV陽性件数は初年度が1件、2年度目が2件、最終年度が3件（総計で6件、1.9%）、梅毒の陽性件数は初年度が8件、2年度目が23件、最終年度が31件（総計で62件、20.5%、いずれも既往

歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、92.3%~98.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認したと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で2名であった。

D. 考察

全国的に保健所の受検者数が減少している中、本研究に参加する地域の10CBOは、保健所以外の検査機会を模索し、郵送検査・クリニック検査・コミュニティセンターでの検査を実施した。3年間で、郵送検査の件数は対面配布・WEB配布をあわせて1,053件から2,067件となり、利用者数も769人から1,537人と約2倍となった。検査結果の確認画面へのアクセスは増加し、すべての地域の利用者で95%以上が確認するようになり、その後の転機は不明な場合も多いが、一部は相談等の状況から受診していることも確認されている。HIV陽性率は事前の自記式調査結果を踏まえHIV新規陽性率は0.9%~1.8%と横這い、梅毒新規陽性率は5.6%~10.3%と増加していた。ほぼすべての地域で梅毒の陽性件数は増加しており、梅毒感染の拡大が懸念される。また診療所での検査と合わせて郵送検査のスクリーニング検査でもHIV陽性件数は微増していると考えられ、MSMにおける予防行動への介入を再構築する必要がある。

対象者の配布方法別の解析結果から、感染リスクの高い層に届いていることが示されているが、初受検の割合は2割強にとどまっておらず、新たな層へのアプローチは不十分であったと考えられる。しかし、コロナ禍において保健所の検査体制が安定的に維持しにくい状況で、各地のCBOが協働し、保健所以外の検査機会をニーズの高い層に提供でき、早期発見・早期治療に貢献したと考えられる。制度面や人的金銭的な面でハードルは高いが、配布数は約2倍となり、利用者数も2倍となった。3年間の成果としてCBO主導によるWEB配布・対面配布手法の構築があり、最終年度の分析結果より、対面配布の特徴と

して商業施設利用者が多く、感染リスクの高い層に届けられる可能性が示された。

コロナ禍の影響は、保健所の体制のみならず、コミュニティの状況や予防啓発活動に従事する当事者の状況にも影響を与えた。研究開始当初はその2倍の件数を目指したが、現状2,000件程度となった。新規陽性率が高いことから新たな層に一部到達したと考えられるが十分ではない。しかし、クリニック検査は4地域に広がり、郵送検査はコミュニティセンターやコミュニティセンターない地域でも無料・匿名で実施できる手法を確立した。したがって部分的に有効な HIV 検査機会の提供はできたと考えられる。

CBO のネットワークを活用し、対面配布と WEB 配布 (WEB で申し込み、自宅または郵便局等での受け取り) を組み合わせて実施し、申込者には、受検者 WEB アンケートへの回答も依頼した。基本属性、HIV 検査経験、商業施設の利用、性行動、性感染症の既往について尋ね、全回答者にユニーク ID をアンケート回答終了画面に発行し、その ID を検査申し込み時の ID として記載することを任意で依頼することで、WEB 配布と対面配布の利用者の差異を把握しようと試みた。2021年度と2022年度の利用者の概要を表1、表2に示した。

また検査キットに、“使ってみたアンケート”として使用感を尋ねるアンケートを入れ、検体と同封しての返送を依頼した。また検査キットを利用したことの感想を尋ねる“使ってみたアンケート”を同封し、解析した(表3)。

実際に検査を利用した人では、アンケート回答のみのものより若く、HIV 検査経験があり、PrEP 認知が高かった。検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。

また検査キットを利用後のアンケート解析では、セクシャリティについて WEB 配布の方が、対面配布よりバイセクシュアルの割合

が高かった。居住地は、対面配布より WEB 配布の方が農村・漁村・山間部の占める割合が高かった。採血の困難感については、「難しかった」と回答したものは、対面配布と WEB 配布で差が見られた。また自由記載を満足度別に分析し、カテゴリー分けを行った。匿名、自身で好きな時に、時間に縛られず実施できたことに満足感をみいだしていたと考えられる。一方、採血量を規定量出す難しさや、緊張、恐怖感があったとの意見もみられた。今後も利用したいとの声が多数みられ、一部自己負担であっても利用したい、他の検査項目もあればありがたいとの声もみられた。

使ってみたアンケート 2022

自由記載まとめ

Q7.採血はどうだったか -1.簡単だったと回答したものにおける自由記載内容
<説明がわかりやすい>

- ・イラスト付き、読めばわかる説明書、器具説明書が判りやすい (10件)
- ・記入することが少なくて楽
- ・対面で採血の方法をわかりやすく教えていただいたから (6件)
- ・説明がくわしかった、わかりやすかった説明書に細かく手順が記載されていた。失敗しない工夫も助かった (52件)
- ・わかりやすい (11件)
- ・動画で親切な説明があったので (4件)
- ・Great illustrations and detailed information.

<手順、採血操作が簡単>

- ・思ったより痛くなく簡単に採血できた (10件)
- ・少しドキドキしましたが簡単でした
- ・リトマス紙2本分赤くするのにいつも指2本に穴あけてしまいます。(8件)
- ・すぐできる (11件)
- ・数分でできる。痛みもほとんどない
- ・少量の血でよい (4件)
- ・以前使ったのが採血タイプだったので紙の方がやりやすかった。
- ・血液の乾燥させる時間を教えてくれたら良いと思います

- ・器具が使いやすかった。説明がわかりやすかった。
- ・血液が出易いところを見つけた
- ・血糖の検査でやったことがあったので
- ・検査キットに添付している自動ランセットを使用するだけで採血できる
- ・検査の流れがとてもシンプルで、ストレスが少なかった。
- ・今回は血が良く出た
- ・自ら指に針を刺すのは怖かった。
- ・刺して血を出すだけで良いため（目安としてどのくらい手を温めればいいのか分かったりもっと分かりやすいと思いました。）
- ・使用方法が簡潔であったため（2件）
- ・すぐ血が出たから。指に刺すまで緊張しました。少しこわかったです。
- ・少しイタかったけど簡単でした。（5件）
- ・単純でわかりやすかった
- ・使いやすく安心でした。
- ・机があればどこでも扱えるから。
- ・手軽。針刺す事に抵抗あり。
- ・手順が少ないから
- ・手を温めて針を刺すだけなので簡単
- ・手をあたためるとスムーズに採れますね
- ・とても簡単で分かりやすいです
- ・初めての使用でしたが簡単にできました
- ・初めてのためドキドキしましたが、問題なくできた。
- ・冬にキットを使った時よりも採血しやすかった。前に使用したときは、キットが1つだったので、今回2つ入っていて確実に採血できた。
- ・指先に少しだけ痛みはあるが採血（注射）より楽にできる（3件）
- ・指先を器具で刺すだけだったため。
- ・予備が一本あったので助かりました。
- ・血が十分にでた
- ・血がなかなか出なかったけどなんとかできた
- ・チクッと早かったです
- ・血だまりが作りにくかったですが何回かやったらできたから！
- ・血は出るのに少し困ったが2本あったのでよかった
- ・血を止めない様にするのにコツを要するが、それさえクリアできたら簡単だと思う。
- ・血をろ紙に付着させるだけなので、簡単だった（3件）
- ・針も目に見えずに使えてよかった。すこしきんちょうした。

- ・針を刺して、ろ紙に血液をとるシンプルな作業だったから。採取する血液の量は多いと感じた。
- ・針を刺すことは簡単でしたが、小指でやったら思った程血が出ずに、改めて薬指でやったらうまくいったので指の選択も関係があると記載してほしいです。
- ・ランセットが使いやすかったため（7件）
- ・ランセットを押しつけるのが少し緊張したが、やりやすかった。血液を採血するのが難しかった。
- ・ろ紙に血液を染み込ませるだけでいいから
- ・ろ紙につけるだけだったため

< 痛くない >

- ・あまり痛くない(29件)
- ・一瞬チクッと痛かったが大丈夫だった
- ・針を差すときは怖いけど意外と痛くなかった
- ・想像より痛みが少なかった

< 自宅でできる >

- ・自宅で行えるため（13件）
- ・家で都合の良い時間に検査できて結果も家で見れるのは良い
- ・自分1人でできたから

< 以前にもやったことがある >

- ・以前も利用したので（16件）
- ・過去に使用した事があるため
- ・なれたから

< 否定的意見 >

- ・意外と痛い（4件）
- ・指を絞ったが血があまり出なかった。(7件) 手順は簡単だったが、しっかり手を温めないと血が出てこないで、1回目（1本目）で血がぜんぜん出なくて少しあせった。
- ・採血は簡単だったが説明書が多い。
- ・マンガなどの説明など工夫が必。(3件)

< その他 >

- ・医療関係に勤めているためすぐ使える（2件）
- ・郵送サービスを更に拡充してほしいと思った
- ・私は外国人なので、顔を合わせてコミュニケーションを取るの難しいです
- ・Thank you

Q7.採血はどうだったか -どちらでもない
と回答したものにおける自由記載内容

<血が出にくい>

- ・あまり血が取れなかった
- ・いつもより採血しなきゃいけない量が多く、難しかった
- ・上手く採血ができなかった
- ・押す圧力は把握できずうまくいかなかったので2回目までやっとできました！
- ・思ったより早く血が止まってしまい必要量を出すのが大変だった
- ・思ったよりも血液採取量が多かった
- ・簡易的であったが、ろ紙に血を接触させる量が多いと思った。アルコールを乾燥させる前に穿刺すると血が流れやすくなるため注意点があった方が良かった。
- ・1・2回目が苦労した。3回目なので上手くできた。
- ・1回だけで採血できればより楽（今回は2回）。体が冷めているときは採血しにくいかもしれない。
- ・1回目親指にした時少し痛くて採血していたが血が出づらくなり2回目針の痛みを知ったので針をするのが怖くなった。
- ・1回目は血液の量が少なかったので2回実施してようやく規定量のサンプルが採取できた。1回目で足りなかったときは少し焦った。
- ・2個あって良かった。1個だと止ってしまった。
- ・器具の操作は簡単だったが、決められた量の血液を絞り出すのが難しかった。
- ・キット自体は簡単なのですが、血がすぐに止まってしまうことがあるのでもう少し針が大きい方がより採血しやすそうです。
- ・血液の出が悪かったのか、2回やってなんとか採血できた。
- ・血行のせいか血が出てきにくい
- ・採血する血液の量が一度に採る事が難しく苦勞する。
- ・採血のコツをもってしても1針目で十分な血液量が出せず難しかった。他手順ややり方は簡単だった。
- ・採血の方法は分かりやすく、簡単だと思うが、準備不足（手が温かくなっていなかった）のため、採血に失敗してしまったため
- ・自分で採血するのが初めてだったので、1回目はうまく血が採れず2回目ではどうにか取れた為
- ・出血が途中でかわいてしまった

- ・すぐに血が止まってしまい、なかなか十分な量が得られなかった
- ・操作自体は簡単だったが、採血のハードルが少し高かった
- ・想定より血が出らずあせってしまった為
- ・血が集めるのが難しかった。(20件)
- ・血が出にくく少しむずかしかった。2回目は入浴後にしたらすぐ出た。
- ・血が出るように温めるなど難しい部分もある
- ・なかなか血が出にくい
- ・なかなか血が出にくく、ろ紙に染み込ませるのが少し難しかったため
- ・初めてだったので、1回目は血が止まってしまったが、2回目は上手くとれた
- ・やり方は簡単だが、なかなか血が2cmまでつけられなくて大変
- ・要領は簡単だが、1回目逆手ですると血が出にくかった。2回目のきき手のが出やすいと思った。
- ・ランセット1つだと充分に採血できず、2コ使ってやっと必要分が採血できた
- ・ランセットを使うときに向き不向きの指がありそう

<痛い、怖い>

- ・イタイ
- ・痛い。血の量が少なかったり
- ・ちょっといたかったです（笑）
- ・採血が少し痛かった
- ・簡単だけど針がコワイ
- ・こわい
- ・こわかった（汗）
- ・採血を自分ですることに恐怖がある（痛みに対して）
- ・とても簡単だったが自分で針をさすのに抵抗があった。
- ・自分で針を刺すのは覚悟がいる。血が出にくい。
- ・流れは簡単だが、針がなかなか出てくるのに力があるのでためらってしまう
- ・初めてだったので緊張しました。
- ・針が出るタイミングがわからなくて不安だった。
- ・針をさす作業が初めてだったため、うまくできるか不安であった
- ・やり方自体は簡単だが、採血をするために血液を出すことに少しためらってしまう
- ・ランセットが怖かった（自分ですることが）
- ・ランセット使用に手間どった

<説明がわかりやすい>

- ・説明書が分かりやすかった
- ・必要量の血液がなかなか集まらなかったが、説明はわかりやすかったです。

<説明がわかりにくい>

- ・基本的には簡単だが、動画が4枚採取だったので、2枚のところを4枚採ってしまった
- ・仕方が分かりにくかった
- ・説明がふくぎつ
- ・リーフレットが多すぎて手順がまよう

<その他>

- ・コミュニティセンターまでうけとりにいくのが手間
- ・申し込みは楽だったが、届くまでと結果が保健所とくらべると遅い。
- ・初めてだったので手間取ったが、慣れれば簡単に出来る
- ・針さすまではかなり躊躇したが、刺してしまえば大して痛くなかったので、次回からは簡単にできると思います
- ・ランセットで刺すだけで採血が終了できると良いと思った。
- ・もう少し採血の際の行程が簡単に出来たらと思います。

Q7.採血はどうだったか -難しかったと回答したものにおける自由記載内容

<血が出にくい>

- ・1回目すぐに血がとまって2回さしました。(3件)
- ・2cmは無理(3件)
- ・朝だったせいか、血がうまくとれなかった
- ・意外と血が出づらかった
- ・一度の穿刺で採血できなかったので二度実施しました。
- ・うまく血が出て来ない
- ・上手く血が出なかった
- ・思うように血が出て来なくて手こずってしまった
- ・思ったより血の量を多く出さないといけなと思った。2cmになかなか届かなかった。
- ・お湯で手を温めて採血したもののすぐに血が止まり苦労しました。
- ・規定量の採血ができなかった
- ・血圧が低いので血があまり出ない
- ・血液が思ったほど出なかった。

- ・血液が出づらい
- ・血液凝固してしまい、採血できなくなって、カッターで指を切って採血しました。もっと針を入れて下さい。
- ・血液の採取が思うようにいかなかったから
- ・血液の量が少ない(出ない)
- ・血液量があまり取れなかった。
- ・採血が上手くいかない
- ・さいけつがうまくできなかった。すぐ血が止まってしまう。
- ・採血が十分にできなかった(5件)
- ・採血が難しく、量があまり出なかった。すいません。
- ・採血の針がどの程度かわからず1回目は失敗した
- ・採血量が多く、一度のランセットでは血液量が足りず、別の指で二度目のランセットを使用しなくてはならなかった。
- ・採血量が多くギリギリだった。針が2個ないとだめでした。
- ・採取する血の量が多くて難しい
- ・出血量が少ないと大変でした
- ・すぐ血が固まってしまうので2枚分の血を出すのに苦労しました。
- ・すぐに止血して、血を出すのが難しかった
- ・前回までは採血がうまくできたのに今回はうまくできませんでした
- ・想像以上に血が出なかった
- ・血が2cm以上出ず苦労した(25件)
- ・血が思ったように出てこなかった(指示通りにやったのだが)
- ・血が出にくく、ランセット2つでギリギリ
- ・血が止まってしまい、針を数回ささないとならなかった。
- ・血がなかなか出ず2cmまで行かなかったから。
- ・血が指先だと出にくい。
- ・血足りない
- ・血の出が悪い体質で、キットのせいではないです。
- ・血の量が少なく何度も針をさしたが、針がダメになってしま量足りるか不安。
- ・手のマッサージやお湯であたためたりしたが血玉を作るのが難しかった
- ・手をあたためたがうまく血が出てこず中途半端になってしまった。
- ・途中で血が止まってしまい、2本の指で採血しました。
- ・なかなか採血がうまくいかなかった

- ・中々血が出ずラインまでしみこませるのが大変
- ・なかなか血が出ない。地味にいたい。押し出すと内出血しそう
- ・中々血が出ない。ランセットだけでは足りない。
- ・なかなかでない
- ・初めてだったので怖かったし、血が出てこなかった… 2本目(中指)でやっと出た。
- ・針がやや短い気がする。出血が少なくて苦労した。
- ・針を刺す時に親指で中指を押さえるのを忘れてしまい、血があまり出なかった為(2本目はうまくいきました)
- ・必要な量を採る前に血が止まってしまい大変でした。
- ・必要分の血が出なかったため(約2cmのろ紙2枚分)。ランセットを2本使って、血がでやすくなる工夫(お湯で手を温める、指先をもむ等)しても中々でなかった。
- ・病院の採血時においてお願いしてキットへ。自分では血は出なかったの…
- ・指1本じゃ血が足りないし、2cmは多い。指を輪ゴムでしばらないと十分な血は出ない。
- ・指の先に針を指したら、内出血した。指の真中ぐらいただと血が出てきた
- ・ランチャーが深くまでささらず血を出せなかった
- ・ろ紙が2枚なのは大変でした(ランセットが2コじゃないと血液が足りませんでした)
- ・ろ紙に2センチほどしみこませるのが難しい。血玉になるまでためても1cmほどしか
- ・ろ紙に血液をつける作業はやりづらい
- ・ろ紙に必要な量の血液を2cmまで取るのが難しかった
- ・ろ紙の血の量が多く何度もしぼりだしたので

<痛い、怖い>

- ・痛いのが苦手
- ・いたかった
- ・こわい～ 思ったより血が出なかった。
- ・こわかった
- ・恐かった
- ・採血がこわくて自分ではうまく血がとれない
- ・使用法は簡単だが、針を刺すのに勇気が必要。しかたないとは言え、その点が難。

- ・針が出る採血キットを自分に刺す事に勇気が必要だった
- ・針がどのタイミングで出てくるかわからないのですごく怖い
- ・針の瞬間が恐くてなかなかできず血も途中で止まり2本使った
- ・針を刺すのが怖い。なかなか刺さらない。血が意外と出ない。
- ・やっぱり針を刺すのはためらう
- ・指に針を刺すのが怖かった

<手順、操作が難しい>

1回目、針がうまく刺さらず空打ちになってしまったので。

うまく使えませんでした

器具の使い方、採血枚数がわかりにくいよくわかんなかった。

ランセットが上手く使えずスムーズに採血できなかった。

ランセットの2個目がうまく作動しなかったの自分で血を出したところ

<その他>

予想以上に血が出た

Q8.使ってみて -とても満足していると回答したものにおける自由記載内容

<自宅でできる>

- ・家で完結するのはありがたい
- ・家で簡単に出来るのでクリニックに行かなくても検査できることが非常に助かります。
- ・家で時間をかけずにできるから
- ・行かなくても良い所
- ・今まで、時間を使って検査に行っていたのが、手軽にできたから。
- ・医療機関等に出向く必要がなく、安心して検査を受けられるところ。
- ・医療機関に行かなくてもよいので
- ・結果がスマホでわかるので
- ・検査場に行かなくて済むから
- ・検査に合わせて休みを取ったり、結果を取りに行ったりと手間が省ける
- ・検査に行く時間が取れず、ゲイということで行きにくかったの
- ・検査に行く必要がないのでとても楽でした。
- ・検査にすぐ行けないため郵送でできるのは助かる
- ・検査に出向かず自宅でできるので
- ・検査を受けたい時に予約が取れないことも多いため。

- ・個人が特定されず自宅で実施できるため
- ・コロナ禍で保健所での検査がほぼ不可能なため本当に助かる
- ・コロナ禍で保健所の無料検査が使えなくなったのでとても助かりました。ありがとうございます。
- ・コロナで、保健所検査も中止していた助かった。
- ・コロナの影響で保健所での検査が止まっているため本当に助かる
- ・コロナの関係で保健所が閉まっていたりするのでゆうそう検査はありがたいと思った。
- ・地元の保健所はコロナ禍で多忙の様子だったので、助かりました
- ・仕事等で忙しいが、ゆうそう検査なら自宅でカンタンに検査できるのでとても便利だった。
- ・自宅で簡単にできる為
- ・自宅で気軽に検査できてよかったです
- ・自宅で検査ができるので（6件）
- ・自宅で時間のある時に検査できるので、施設に行かなくてもいいので助かりました。
- ・自宅で自分で採血できて簡単で良いキットです。
- ・自宅で自分のペースで検査ができるから。無料なのもとてもありがたいです。
- ・自宅に簡単に検査ができるため。
- ・自宅にて手軽に検査が出来るのはこのご時世ありがたいです。
- ・実家暮らしで親にバレたくなかったので、この方法が一番良かった。
- ・自分の好きなタイミングで受検できるから
- ・自分のタイミングで行えるため
- ・自分のタイミングで検査できる
- ・自分の都合でできるから
- ・なかなか都合がつかず、検査キットを受け取ることができなかつたので、郵送で完結するのはありがたいです。
- ・郵送で完結するのが良い
- ・郵送で調べられるのは便利
- ・郵送で無料なのありがたい
- ・郵送なので自分のタイミングで検査を受けられたのと無料だったので

<人と会わなくてよい>

- ・会わずに検査出来る点
- ・周囲の目を気にする必要ないため
- ・第三者に気付かれない。病院に行く時間があまりなかった。
- ・対面で行うのは難しくて

- ・対面での検査はにがてなのですが、ゆうそう検査は自宅で簡単に出来るから
- ・他人と顔を会わず事なく検査できるから。
- ・他人に会わなくて済むので良かったです
- ・誰にも知られずに検査できるから。無料でできる。
- ・だれにも知られずにできる
- ・誰にもバレずにできた
- ・検査してみたかったが、今まで近くにあるのかわからず、対面などではしたくなかった。
- ・コロナで人と接触はさげたい
- ・コロナもあり人との接触も防げ、簡単に検査ができるため
- ・コロナ禍で、対面せずに検査が受けられるので。
- ・デジタルディスプレイで誰にも説明せずに受けとれるため
- ・人とあうことがなく検査可能なので取りに行くてまもなくよかったです。
- ・人と会わずにすむから（10件）
- ・秘密で出来て良いです
- ・病院等にいかなくても検査できる
- ・病院などの検査だと、人の目もあってやりづらい
- ・病院に行かずに検査できる為（2件）
- ・病院に行く手間が省けるから
- ・病院の様な所に行くのをためらっていたので、知ってすぐ、もらいに行きました。
- ・病院や保健所は対面で行うため、匿名であつても行きづらい

<時間、場所の制約がない>

- ・検査機関に行く時間を短縮できるから
- ・時間・場所にしばられず簡便
- ・時間が自由。近くに病院がない（10件）
- ・仕事で検査機関が営業している時間に行きにくいのでありがたいです。
- ・事前予約など必要なく、自分の空いている時間に自宅で出来る
- ・自宅で時間のしぼりが無く出来るので。
- ・時短になる。問診を受けなくて済む（保健所で色々聞かれてあまり良い印象がない）
- ・自由なタイミングで検査ができるのはとても満足しています
- ・ひたすら便利。ネットで結果が分かるのがありがたいです。
- ・ふだん検査に行く時間がとれない
- ・保健所の検査だと、日中行けないので便利（3件）

- ・予定を空けなくて済むから
- ・予約、待ち時間等が不要なため
- ・予約不要で、自分のタイミングで受けられたこと
- ・申し込みからすぐに届き、(注射が嫌いなので) センター等で採血されるまで待っている間の憂うつ感があまりなく採血できたのがよかった。

<受け取りが楽>

- ・受け取りも楽で、自宅ですべてよい
- ・キットを受け取る時間が短く、採血は自分の都合のよい日時に行えるため
- ・局留めにしてくれるので良かった
- ・初めてで受取りに不安がありましたが満足です。
- ・郵送も早く、局留め等も利用でき、プライベート、プライバシーの配慮があった。
- ・郵便局で受けとれるから

<プライバシー保護>

- ・匿名、無料、予約なしで HIV・梅毒の検査が受けられる。(10件)
- ・プライバシーも守られて、安心して検査を受けられたから。
- ・プライバシーできます。近くに検査場所があればもっとも便利です。
- ・プライベートが守られているから
- ・過去に保健所で受けた際に色々とプライベートな質問をされて面倒だったので

<簡単、気軽>

- ・Web でかんたんにもうしこみできるから
- ・あまり時間がかからずカンタンだった
- ・受け取りが簡単だった
- ・思ったより簡単に検査ができた。
- ・カンタン (30件)
- ・気軽に受けれた(20件)
- ・すごく簡単に HIV と梅毒と複数調べられる点が良い
- ・説明も分かりやすく簡単でした。(4件)
- ・手軽、時間が取られない (20件)
- ・手軽にカンタンに出来るのでとても良いと思いました
- ・手続きが簡単だから (6件)
- ・兎に角、満足です。
- ・便利 (6件)
- ・保健所に行くには少しためらいがあるため
- ・保健所の検査がコロナで受けづらくなってしまったので

- ・申し込みもキットの到着もカンタン
- ・申し込んですぐ届いてすぐ検査できたため
- ・郵送が早い、結果が Web で見れる
- ・楽 (6件)
- ・気になっていた HIV 検査を楽に受けれた。

<無料>

- ・企業の検査をこれまで利用していたが高価だったが無料でできたから
- ・簡単、無料(5件)
- ・保健所の無料検査の予約が出来なかった。助かりました。
- ・無料で実施できて、時間もとらない(30件)
- ・無料で検査できるのは大変助かる。また、郵便局留めに出来たのも良かった。
- ・無料でしかも匿名で検査が受けられるから非常に有難い
- ・無料での検査、有難うございます。会場のボランティアの方もすごく親切でした。
- ・無料なので気軽に検査できる。非対面なのでよりプライバシーを保てる。
- ・研究目的とはいえ親切なキットで簡単に実施できるし、無料であるのはありがたい。
- ・自己検査だと費用が高いから
- ・性病検査はもっと敷居が高く、お金がかかるものだと思っていた。

<その他>

- ・安心して使う事ができました
- ・信頼できる検査会社なので
- ・いつもよりストレスが少ない。
- ・キットを受け取る際、とても丁寧に説明していただけて、検体を送るだけっていうのもすごく良いと思いました。
- ・結果を待つのが長くないから
- ・採血時の針がそこまで痛くなかった。
- ・ちょっと不安だったのでありがたかった
- ・1~2ヶ月の1回くらいのペースで行ってほしい!
- ・定期的に検査したいから(3件)
- ・なかなか行くことが出来ないのも、こういった機会をつくって下さって、感謝いたします。
- ・申し込みしてからとても早かった
- ・採血は難しかったが便利です。
- ・ただ上手く血が出せなかった

Q8.使ってみて -まあ満足している
と回答したものにおける自由記載内容

<自宅ができる>

- ・家などで、出来るのが良いと思います。
- ・忙しいときでも、家で手軽にできる
- ・怖いのが、検査が自分のペースでできる
- ・自宅で、自分のタイミングで出来る
- ・自宅で検査できるのはとてもいいと思った
- ・自宅で手軽に利用できるから
- ・自宅でできるから(3件)
- ・自分の好きなタイミングで採血できるから。キットを受け取るのは少し手間ではある。
- ・自分のタイミングでやれて便利。居住地でできる場所少ないのでありがたい。
- ・少し難しかったが、自宅でできたので
- ・便利(自宅等でできるので)
- ・まだ結果がわからないが、自宅から郵送で出来るのはいい(2件)

<人と会わなくて済む>

- ・顔を合わせなくて済むから
- ・家族等に、何をするのか知られずに利用できる
- ・対面式の検査ではないためプライバシーの面から安心して検査を受けることができた
- ・対面しなくて良いから
- ・誰にも会うことなく検査できるから良い
- ・血をみつめるのは大変だが、とくめいで検査(かおを合わせずに)できるから
- ・秘匿性がある
- ・人と会わない
- ・1人で検査行えるところは良いと感じた
- ・病院に行くのがないため。

<時間、場所の制約がない>

- ・いつでも自分のタイミングで行える
- ・検査の為に移動する時間や顔を合わせる事がない手軽さが良い
- ・時間が有効に使える
- ・時間に関係なく自分のタイミングで採血できる
- ・市などの検査より時間がはば広くキットを受けとれたため
- ・自分で採血するので、指定時刻に行く必要がないから
- ・住んでいる千葉県ではそういう検査キットの配布が無いので近くにある便利
- ・即日検査会場が遠いので自宅のできるのが良い

<簡単、手軽>

- ・3回目の利用ですが、本当に簡単に行えて、痛みも少ないので。
- ・思っていた以上に手軽だったが、ランセットを検査本数+1本でもいいと思います
- ・簡易的に検査できて助かります
- ・簡単(4件)
- ・気軽的ではあると思う(5件)
- ・せいじくなのがうれしい
- ・それほど複雑でもなかった
- ・手軽だから(6件)
- ・初めての検査でも忌避感なくできた。
- ・便利、無料

<無料>

- ・無料・匿名で保健所などに行かなくてよいので
- ・無料で検査が出来る
- ・無料で検査できるのはとてもいいと思います。血の採血方法がもっとしやすくなるとより良いと思います。
- ・無料なので

<難しかった>

- ・思いの他痛かった。2cmずつ取る前に血が出なくなり穴が塞がった
- ・思ったより流血した
- ・採血がうまくいかなかった
- ・採血が少しだけ手間が掛かる
- ・採血さえうまく行けば自宅で自分のペースやタイミングに合わせて検査できるのが便利だから
- ・採血時にうまく血が出なかったので規定量をろ紙に取るのが大変だった
- ・採取枚数の誤りが結果に影響しないと良い
- ・個人差があるが血が出ない時困った
- ・検査所などに行かなくても、いつでも、無料で実施でき、満足。採血は簡単だったが、やはり人にやってもらった方が楽ではある。
- ・検査するのに勇気がいった
- ・ランセット押すのが若干怖かった
- ・ランセット使うのに少し勇気いるw
- ・針がいつ出るのか分からず少し怖かった
- ・器具の使い方がはっきりしない
- ・消毒綿を使うタイミグが不明で困った。
- ・ややめんどう。

<配布、受け取りが不満>

- ・キットを取りに行くのが大変（遠い）
- ・都心でしか配布されていないため、地方でも配布していただきたいです
- ・配送に時間がかかる
- ・発送通知から到着までが長かった
- ・配付品要らない

<その他>

- ・分かりやすかった
- ・検査を定期的にうけたいのでこういう仕組みはうれしい
- ・また利用したい
- ・高頻度に検査できる
- ・できたら、クラミジアや淋病の検査もこのようにしたいのです。
- ・淋病とクラミジア（咽頭含む）までカバーしてくれたら完璧
- ・特に難しいことはなく、始めるまでの方が長かった。
- ・初めてなのでどんなものかと今は思っている
- ・初めてなのでまだ不安です
- ・結果がでるまではなんとも
- ・まだ結果が出ていないので

Q8.使ってみて -あまり満足していないと回答したものにおける自由記載内容

- ・採血が難しい
- ・採血がむづかしかったから、人にやってもらう方が楽
- ・針さしが痛い。検査機関でやってもらうほうが良いと思いました。
- ・ランセットが痛かった。
- ・もう少しカンタンに出来ないかと
- ・手間が掛かる、結果まで時間がかかる
- ・ベ切がいつを指すのか（必着？ 利用？ 消印？）わかりにくい
- ・まだ結果が出ていないのでわからない

Q8.使ってみて -全く満足していないと回答したものにおける自由記載内容

- ・血を一回は貯めれましたが、その後は全くできませんでした。
- ・必要量の採取がむづかしい
- ・恐らく血液不足による検体不備で正しい検査結果が期待できないため
- ・家族にバレずに…というのが、名も無き配送物は察しのいい人にはバレそう。

- ・結果がどうなるかわかりませんが、ネットでみれるのはすごくありがたい

Q10. その他の意見や感想

<手順、方法が難しい>

- ・2 cmの採取はなかなかむづかしいです。
- ・2回指を刺しても2回目の採血量が足りていないかもしれません。
- ・全然うまく出来ない。これならまだお金を払って採血してもらったほうがまし。
- ・逆に採血のコツを読まなければ採血が難しかったかもしれないです。イス座ではなく床座なので手を下げにくかったです。あと、ろ紙の乾燥時間の目安が知りたい！
- ・血液の採取方法と、ろ紙にしみこむ量の難しさの改善
- ・採血がもう少し楽になれば使いたい
- ・血を出すのがかなり難しい作業。それをクリアできれば楽かも。
- ・問題は書類の多さと血の採血方法と針を刺した時の痛み対策があると思う
- ・針が不足でした。自分で指を切って採血した事は少しショックでした…
- ・採血のハリ、ランセットがもう少し欲しかった（5件）
- ・ランセットが怖い

<他の感染症もやってほしい>

- ・HIV、梅毒だけでなく、肝炎や他の検査も同様の企画を実施してほしい（7件）多少の料金がかかってもいい。自己負担額をいくらかプラスすると他の検査が出来るオプションがあるといいかも 検査出来るおすすめのクリニックをしれたらうれしい。
- ・COVID19の影響で保健所等での検査が中止となっている中とても助かる（8件）
- ・保健所は手軽だが、検査できる日時が限られており、特に地方に住んでいると、なかなかうけづらい。このように自宅で任意の時間に検査ができる仕組みがあると、受ける機会が増え安心できる。（2件）
- ・保健所とかなど、なかなか勇気が出なかったり、予定が合わない自分にとっては、とてもよかったです。

<配布、受け取り方法について>

- ・あまり2丁目に行かないのでいろんな場所で配布されるとうれしい
- ・（名古屋の）中央区の会場もどして下さい

- ・いままで地方にすんでいてこのような検査を利用できなかったが、利用しやすくして便利（5件）
- ・大きな街で配ると地方の人は置きざりになる。これからもこの形式が良いです。
- ・受け取りがゆうそうになればとても助かります（2件）
- ・都市部だけではなく、住まいの市役所などでも可能になれば良いです。自治体の役所などに機械設置があったらよい（2件）
- ・通年配布してほしい。配布場所を増やしてほしい。東京であれば立川の他に4か所ほど。無料検査の枠が少ない。

<その他の要望>

- ・Need English
- ・紙がかきにくい（2件）
- ・ゲイフレンドリーな梅毒治療できる医療機関のリストがほしい。
- ・できれば、パートナーがいる人もいると思うので、検査キットの複数注文などできるとうれしいと思います。
- ・説明書が多いので、1つにまとめたらわかりやすいです。
- ・人数枠がありましたが、沢山の人が利用出来るといいです。
- ・認知度が高ければ、もっと活用されると思います。今回、SNS経由で知れて、助かりました。
- ・ナインモンstars等のアプリ以外でもツイッター等のSNSで告知してくれるとありがたいです
- ・郵送検査を出来るのを初めて知ったのでもっと周知してほしい。（2件）
- ・もう少し配布の会場の中で扉が閉まったりしてくれるとプライバシーが守れる気がしました。

<お礼など、今後も配布の希望>

- ・たすかりました。ありがとうございます。（55件）
- ・保健所に行く事が出来ないのを助かります人と会わなくてよいのは助かります 信頼がある検査で安心してます ずっと検査を受けてみたかったので、感謝しています。
- ・今後とも定期的に利用したいと思います。ぜひ定期的にこのような機会があることを期待します（20件）
- ・無料かつ郵送できるのが助かります。無料匿名の検査ありがとうございます！（22件）

- ・クリニックとかで受けると費用が高くてなかなか受けられない。お金がない人からするとこのような検査があることはとても助かる。今後もぜひ続けてほしい。（2件）
- ・採血がうまくできず、コールセンターで対応していただきました。量が足りていないですがお送りします。コールセンターがとてもわかりやすく、ていねいな対応で助かりました。（2件）
- ・定期的な配布をお願いします（8件）
- ・料金がかかってもよいので（千円台くらいで）これからも継続してほしい（3件）
- ・近所で気軽に思い立ったときにHIV検査ができる場所がないので、申し込みをしてからテンポよく検査まで行うことができ良かった。
- ・保健所に行くのも手間がかかる、梅毒検査も無料のキットなので大変助かります。無料で受けられることで感染拡大も止められます。
- ・とても良い、助かる取りくみだと思います。大変な活動ではあると思いますが、どうかがんばって下さい。
- ・初めて使用してみたが、このコロナの時代にはマッチしてると感じた。
- ・一番手軽に検査できる方法なので、普及するのいいなと思いました。ランセットで刺すのも痛くなくて安心でした。
- ・簡単に検査できる機会をいただき助かります。ありがとうございます。
- ・同様ですが、安心感をもって検査を受けることができました。HIV検査を受けるのは今回がはじめてですが、今後も受けるようにします。
- ・値段が安くなると便利かもですね…
- ・一発で採血できたので、多めに送付くださったランセットを返送します（開けなかった）。ありがとうございます。
- ・キッカケをありがとうございました。
- ・最近、コロナのほうに頭が行きがちで、HIVの事を考えなくなってます。
- ・実施頻度を増やしてもらえるとうれしい
- ・失敗したので、検査不要ですが念のためお送りします。
- ・他の来場者と顔を合わせる事が少し不安でしたが、その様なことも無く済んで良かったです。ありがとうございます。
- ・次も機会があればお願いしたいと思います。
- ・期間限定ではなく365日利用できるとうれしいです。

- ・こうした検査が簡単かついつでも利用できるとうれしい
- ・このよう機会を作って下さりありがとうございました。予算があればつづけてほしいです！
- ・このような感じで検査できると助かります。行きにくい人もいたので年間を通じて郵送できるとうれしいです！
- ・このような素晴らしいキットを提供してください。大変感謝いたします。保健所などにも普及し気軽に利用できると嬉しいです。スタッフ各位がんばってください。ありがとうございます。
- ・手軽さが非常に良いと思いました。また機会があれば利用したいです。
- ・手軽にできるので助かります。お世話になります。
- ・無事血を採れてよかった。
- ・匿名で受検できたので良かったです。
- ・とてもありがたい事業です。ありがとうございます！
- ・とても手軽で便利なので定期的に Web 配布してほしい。
- ・とても良かったので、また機会があれば利用したいです。
- ・とてもわかりやすく説明をしていただき安心して実施できました。ありがとうございます。
- ・何をどうすればいいか、を全部書いてくれているのがとても助かりました。
- ・年齢も重ねてきて身体のこと知りたくてお願いしました。ありがとうございます。
- ・パートナーが (+) のため、自分も他人事とは思えず参加しています
- ・不安が多いなか、SNS などで広告で検査を知ることができました。様々な案内が同封されていて助かります。
- ・また利用したいと思います
- ・むつかしかったけど、ちょうせんして良かったと思います！
- ・もっとこうやって気軽に検査できる機会が増えていけばと思います
- ・もっと無料でできたら色々調べてみたいです。
- ・ランセットも一緒に送れて助かりました。ありがとうございます。
- ・わかりやすい検査を用意して頂きありがとうございました。
- ・親切な検査ありがとうございました
- ・すごく簡単で便利だと思いました

- ・大変ありがたいので、地方での開催は助かります。
- ・多少の金額がかかってもかまわないので定期的に検査したい

E. 結論

ゲイコミュニティ当事者を中心とした CBO と協働して介入することで感染リスクの高い層に予防啓発としての検査機会を提供できることを示した。

予防行動の促進と共に HIV 抗体検査に対するハードルを下げる、持続可能な介入モデルを開発できたことは、ウィズコロナ社会における意義は高いと考える。

今後の展望についてコロナ禍によって変容しつつあるが、コミュニティにおいては PrEP 利用者も増加し、コンドーム使用行動の低減も指摘されている。U=U も徐々に普及しつつあり、今後、スティグマ低減や検査へのハードル低下にも影響すると考えられる。検査機会の安定した確保や選択肢の増加は MSM のセクシュアルヘルスの一環として重要である。検査機会の提供は、本来、公衆衛生の一環であり、CBO はステークホルダーとなるが、主体となるには金銭的にも人的にも脆弱な体制である。これらのことを踏まえ、MSM コミュニティにおける感染リスクやセクシュアルヘルスの状況、予防啓発活動のモニタリングは必要であり、CBO と行政が協働して HIV 対策を進めていく必要があると考える。

本研究班で配布した郵送検査キットを実際に利用したのは初年度 769 人、2 年度目 1,305 人、3 年度目は 1,537 人となり、対象地域におけるコロナ禍における保健所の検査機会の逸失を補完できたと考えられる。

行政や医療機関と協働したクリニック検査の可能な地域も拡大した。本研究で郵送検査利用に関わった対象の調査結果では、形成調査の結果と比較して、コミュニティに近く感染リスク行動の高い層が利用したと考えられ、新たな層の開拓につなげるには十分とは言え

ないが、コミュニティ主導で、感染リスクの高い層が利用できる検査機会の提供モデルを示した。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1.論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史. コミュニティセンターに来院するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2):78-86, 2021.
- 2) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代. MSM(Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌, 23(1):18-25, 2021.
- 3) 金子典代, 塩野徳史. MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌, 22(3):136-146, 2021.
- 4) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa. Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who

have sex with men in Japan. AIDS care : 1-8. 2020.

- 5) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 阿部桜子, 片倉直子, 若林チヒロ, 大木幸子, 山内麻江, 塩野徳史, 米倉佑貴, 大島岳, 高久陽介. HIV 陽性者の子どもを持つことへの思いと医療機関における相談・情報提供の実状. 日本エイズ学会誌, 22(2):87-99, 2020.

2.学会発表

- 1) 塩野徳史. 日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-. 日本エイズ学会 2022 年 浜松.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. 日本エイズ学会 2022 年 浜松.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. 日本エイズ学会 2021 年 東京.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. 日本エイズ学会 2020 年 千葉.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1.特許取得

なし。

2.実用新案登録

なし。

3.その他

なし

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	計
a 配布数		1,053	1,893	2,067	5,013
対面配布数			884	916	
WEB配布数			1,009	1,151	
b 受検者アンケート回答者数		1,048	1,915	2,058	5,021
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		769	1,305	1,537	3,611
対面配布数(c対面/a対面)		()	611 (69.1%)	685 (74.8%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	694 (68.8%)	852 (74.0%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		73.0%	68.9%	74.4%	72.0%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		736 (95.7%)	1,259 (96.5%)	1,506 (98.0%)	3,501 (97.0%)
抗体検査結果		*重複感染（4名）	*重複感染（6名）	*重複感染（13名）	*重複感染（23名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		11 (1.4%)	18 (1.4%)	9 (0.6%)	38 (1.1%)
f 陽性数（割合 f/c）		12 (1.6%)	22 (1.7%)	28 (1.8%)	62 (1.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		13.6 (1.8%)	11.6 (0.9%)	22.9 (1.5%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		29 (3.8%)	46 (3.5%)	38 (2.5%)	113 (3.1%)
h 陽性数（割合 h/c）		113 (15.3%)	185 (14.7%)	260 (17.3%)	558 (16.0%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		41.4 (5.6%)	89.4 (7.1%)	154.4 (10.3%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		631 (82.1%)	924 (70.8%)	956 (62.2%)	2,511 (69.5%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	901 (69.0%)	1,044 (67.9%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	679 (52.0%)	672 (43.7%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

表2 年度別 ゆうそう検査利用者の概要

検査DATA	年度				合計 n=2842	Pearson カイ2乗		
	2021年度 n=1305		2022年度 n=1537					
検査DATA 採血日								
	2021年9月	188	14.4%		188	6.6%	<0.01	
	2021年10月	425	32.6%		425	15.0%		
	2021年11月	244	18.7%		244	8.6%		
	2021年12月	249	19.1%		249	8.8%		
	2022年1月	199	15.2%		199	7.0%		
	2022年7月			65	4.2%	65		2.3%
	2022年8月			251	16.3%	251		8.8%
	2022年9月			303	19.7%	303		10.7%
	2022年10月			417	27.1%	417		14.7%
	2022年11月			494	32.1%	494		17.4%
	2022年12月			7	0.5%	7		0.2%
検査DATA HIV感染症スクリーニング検査結果								
	初めて陽性と知った	21	1.6%	23	1.5%	44		1.5%
	陰性だった	1,265	96.9%	1,500	97.6%	2,765	97.3%	
	判定不能	18	1.4%	9	0.6%	27	1.0%	
	すでに陽性と確認	1	0.1%	5	0.3%	6	0.2%	
検査DATA 梅毒抗体検査結果								
	既往あり	10	0.8%	7	0.5%	17	0.6%	0.01
	初めて陽性と知った	90	6.9%	155	10.1%	245	8.6%	
	陰性だった	1,064	81.5%	1,232	80.2%	2,296	80.8%	
	判定不能	46	3.5%	38	2.5%	84	3.0%	
	再罹患	95	7.3%	105	6.8%	200	7.0%	
検査DATA 結果閲覧の状況								
	未	46	3.5%	31	2.0%	77	2.7%	0.01
	済	1,259	96.5%	1,506	98.0%	2,765	97.3%	
配布方法								
	対面配布	611	46.8%	685	44.6%	1,296	45.6%	0.23
	WEB配布	694	53.2%	852	55.4%	1,546	54.4%	

表3 年度別 使ってみたアンケート結果

	年度				合計 n=1945	Pearson カイ2乗
	2021年度 n=901		2022年度 n=1044			
事後アンケート この検査キットのプログラムをどこで知りましたか？ (R4年度)						
アプリ広告で知った	588	65.3%			588	65.3%
インターネットで知った	142	15.8%			142	15.8%
コミュニティセンターで知った	74	8.2%			74	8.2%
ゲイバーで知った	13	1.4%			13	1.4%
友達から聞いた	74	8.2%			74	8.2%
その他	46	5.1%			46	5.1%
事後アンケート この検査キットをどこで受け取りましたか？ (R5年度)						
コミュニティセンターで			275	26.3%	275	26.3%
デジタル・ディスペンサーで			37	3.5%	37	3.5%
検査キット配布会場で			106	10.2%	106	10.2%
インターネットのWEBページで			16	1.5%	16	1.5%
商業施設・ゲイ向けイベント等で			565	54.1%	565	54.1%
その他			27	2.6%	27	2.6%
無回答			18	1.7%	18	1.7%
事後アンケート 郵送検査キットをこれまで何回利用したことがありますか？ (R5年度)						
今回がはじめて			615	58.9%	615	58.9%
何度か利用した			411	39.4%	411	39.4%
無回答			18	1.7%	18	1.7%
事後アンケート 指先からの採血は簡単でしたか？						
簡単だった	558	61.9%	763	73.1%	1,321	67.9% <0.01
どちらでもない	119	13.2%	125	12.0%	244	12.5%
難しかった	186	20.6%	129	12.4%	315	16.2%
無回答	38	4.2%	27	2.6%	65	3.3%
事後アンケート 今回、ゆうそう検査を使ってみていかがですか？理由も教えてください。(R5年度)						
とても満足している			697	66.8%	697	66.8%
まあ満足している			279	26.7%	279	26.7%
あまり満足していない			14	1.3%	14	1.3%
全く満足していない			4	0.4%	4	0.4%
無回答			50	4.8%	50	4.8%

北海道における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：国見亮佑（にじいろほっかいどう）

研究要旨

北海道地域で、にじいろほっかいどうとレッドリボンさっぽろの2つの団体が協働し、かつ他地域とも MSM ALL JAPAN.での協働体制を活用し、ゆうそう検査キットの配布を実施した。新型コロナ感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、対面配布とWEB配布の両方で試行した。

初年度に100キット、2年度目に217キット、最終年度に229キットの配布ができ、総計で546キット配布した。その結果、HIV陽性件数は初年度が2件、2年度目が3件、最終年度が2件（総計で7件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が15件、2年度目が25件、最終年度が26件（総計で66件、16.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、91.1%~98.3%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で3名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、北海道という地域性を考慮すると、CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所のHIV検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。

また令和2年2月からの新型コロナ感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。北海道地域では、会場を借りての対面配布とWEBにて配布する方式を組み合わせ

実施した。

B.研究方法

受け取り希望者には、googleフォームの申し込みサイトを作成し、そのサイトから申し込みをしてもらい、研究協力者が申し込み内容を確認した上で、検査時間や場所、アンケートの協力の依頼をメールで送信した。パソコンからのメールが届かないトラブルがあったので、携帯電話番号を任意で記入してもらうことにした。

広報については、にじいろほっかいどうの公式サイトとtwitterで告知した。札幌で

の配布のときには、コミュニティ内のキーパーソンにも広報を依頼した。8月から東北と北海道で連携したかたちで、アプリ広告を出し、その後独自の広報サイトでの広報に移行させた。地方での配布の前にゲイ向け商業施設へポスターを郵送し、掲示板に広告を掲出した。

会場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後にキットを受け渡す方法をとった。

相談については、キット対面での配布時もスタッフが常駐して対応、また WEB 配布分について、利用方法等、相談があった際は、メールで対応を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和2年度は、道内5か所で配布場所を設定し、WEB配布も組み合わせ、総計100キットを配布した。会場を借りての5か所での対面配布で86件配布した。

アンケートに回答したものは101名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは79名であった。91.1%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は15件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した79名のうち、73名（92.4%）はアンケート結果IDとの連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者73名の属性については、35歳未満が42.5%を占めた。北海道の居住者が100%で

あった。これまでの検査経験がなかったものは26.0%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち72.6%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は49.3%を占めた。

今回は初めての取り組みであったが、当事者団体2団体が協力し、道内広域にわたる配布会が実施できた。また広報については仙台地域とも連携できることで効果を発揮できた。

令和3年度は、道内8か所で配布場所を設定し、対面配布で161キット、個別に6キット、WEB配布50キットも組み合わせ、総計217キットを配布した。

アンケートに回答し、有効回答であったものは156名であった。95.5%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は3件、梅毒の陽性件数は25件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者95名の属性については、30歳未満が24.2%を占めた。北海道の居住者が98.9%であった。生涯初の検査経験割合は32.6%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち64.2%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は58.9%を占めた。今回は2回目の取り組みであったが、当事者団体2団体が協力し、道内広域にわたる配布会が実施できた。また広報については仙台地域とも連携できることで効果を発揮できた。

最終年度は、道内6市、7ヶ所で配布場所を設定し、対面配布で144キット、WEB配布85キットも組み合わせ、総計229キ

ットを配布した。アンケートに回答し、有効回答であったものは156名であった。HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は26件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者98名の属性については、30歳未満が42.9%を占めた。北海道の居住者が98.0%であった。生涯初の検査経験割合は33.7%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち64.3%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は62.3%を占めた。

D.考察

地方では、月に1度の保健所検査しかない地域も多く、気軽に検査が受けられると好評であり、継続を望む声もあり、事業化へのニーズがみられた。

広報活動については、にじいろほっかいどうの公式サイトとtwitterで告知をしたほか、やろっこと共同でGPS付アプリ広告掲出をした。GPS付アプリ広告を出すことが決まっていたので、広告で宣伝ができる期間に配布を集中させた。地方での配布については、地方の商業施設でのポスター掲出を行った。

配布にあたっては、札幌市内の商業施設でのポスター掲出、掲示板への広告掲出（有料）、「札幌ハッテン掲示板」への広告掲出（無料）を行った。広告の効果では、GPS付アプリ広告は非常に効果が大きかった。

保健所・拠点病院との連携では「ゆうそう検査」の開催について、レッドリボンさっぽろから北海道内の保健所と拠点病院にお知らせを送付した。郵送検査キットの精度へ

の疑問などから協力を断ってきた機関があり、関係機関との連携に課題が残った。日常的に関係機関との信頼関係の構築を行うことが必要である。

東北・北海道広域連携のアプリ広告は、北海道地域でも申し込み件数増加に効果が高かった。HIV郵送検査キットの配布のお知らせが全面に出ていたので、申し込みやすかったのではないかと考えられる。しかしにじいろほっかいどうのみならず、札幌で長く活動しているNPO法人レッドリボンさっぽろとも協働できたことで、北海道内でのHIV予防啓発の活性化につながったと考えられた。

MSM ALL JAPAN.のメンバーからも、配布の進め方を相談したり、啓発資材を供与してもらい、受検者に説明する内容を相談したり、連携、協力ができたことが有意義であった。またオンライン配布の個数、WEB配布の個数も、申し込み数に応じてフレキシブルな対応をすることができた。

E.結論

北海道地域で、にじいろほっかいどうとレッドリボンさっぽろの2つの団体が協働し、かつ他地域ともMSM ALL JAPAN.での協働体制を活用し、ゆうそう検査キットの配布を実施した。新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に100キット、2年度目に217キット、最終年度に229キットの配布ができ、総計で546キット配布した。その結果、HIV陽性件数は初年度が2件、2年度目が3件、最終年度が2件（総計で7件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が15件、2年度目が25件、最終年度が26件（総

計で66件、16.7%、いずれも既往歴も含む)であった。検体を郵送した人のうち、91.1%~98.3%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は3年間で3名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、北海道という地域性を考慮すると、CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象

とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.

- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. 日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. *日本エイズ学会 2021 年 東京*.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. *日本エイズ学会 2020 年 千葉*.

G.知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	計
	地域	北海道	北海道	北海道	
CBO		にじいろほっかいどう	にじいろほっかいどう レッドリボンさっぽろ	にじいろほっかいどう レッドリボンさっぽろ	
コミュニティセンター		-	-	-	
a 配布数		100	217	229	546
対面配布数			167	144	
WEB配布数			50	85	
b 受検者アンケート回答者数		101	155	156	412
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		79	157	173	409
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	117 (81.3%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	56 (65.9%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		79.0%	72.4%	75.5%	74.9%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		72 (91.1%)	150 (95.5%)	170 (98.3%)	392 (95.8%)
抗体検査結果		*重複感染（1名）	*重複感染（2名）		*重複感染（3名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		1 (1.3%)	3 (1.9%)	1 (0.6%)	5 (1.2%)
f 陽性数（割合 f/c）		2 (2.6%)	3 (1.9%)	2 (1.2%)	7 (1.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.3 (2.9%)	0.0 (0.0%)	2.1 (1.2%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		5 (6.3%)	6 (3.8%)	2 (1.2%)	13 (3.2%)
h 陽性数（割合 h/c）		15 (20.3%)	25 (16.6%)	26 (15.2%)	66 (16.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		3.3 (4.4%)	4.7 (3.1%)	16.8 (9.8%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		73 (92.4%)	96 (61.1%)	99 (57.2%)	268 (65.5%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	117 (74.5%)	128 (74.0%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	80 (51.0%)	76 (43.9%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。 *** 空欄は研究デザイン上の都合で、データはない。

東北における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：太田貴（やろっこ）

研究要旨

広域地域である東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 172 キット、2 年度目に 206 キット、最終年度に 153 キットの配布ができ、総計で 531 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 1 件、最終年度が 2 件（総計で 5 件、1.3%）、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 13 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、8.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~97.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 1 名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴い、保健所での検査提供は以前縮小、落ち込みが続いている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

東北地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査をコミュニティセンター ZEL での配布と WEB にて配布を行った。

B.研究方法

コミュニティセンター ZEL では、本ゆうそう検査に関する説明事項を含むメッセージをやろっこの公式 HP、ポスター、4 種類の SNS、ブログ、フリーペーパーと公式 Twitter 等の SNS で配信した。またゲイ向けアプリの起動時広告も活用した。また北

海道地域とも連携し、アプリ広告を活用した広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。

また、インターネット上の広報からアンケートページにつなぎ、その後、郵送検査の自宅・郵便局での受け取りのページに進める WEB 完結型の方法を併用した。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和2年度は総計172キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布40件、WEBでの配布が132件であった。

アンケートに回答したものは180名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは133名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は8件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した133名のうち、96名（72.2%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者96名の属性については、35歳未満が60.4%を占めた。宮城県の居住者が57.3%、岩手県の居住者が10.4%であった。青森県、山形県もそれぞれ8.3%の利用があった。これまでの検査経験がなかったものの割合は28.1%であった。過去1年の検査経験がな

かったものは全体のうち77.1%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は46.9%を占めた。

令和3年度は総計206キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布27件、WEBでの配布が179件であった。

アンケートに回答し有効回答であったものは168名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは126名であった。97.6%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は1件、梅毒の陽性件数は13件（既感染も含む）であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつID連結の同意を得た12名においては、30歳未満が8.3%を占めた。東北地域の居住者が100.0%であった。生涯初の検査経験割合は25.0%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち41.7%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は41.7%を占めた。

WEB配布かつID連結の同意を得た62名においては、30歳未満が48.4%を占めた。東北地域の居住者が95.2%であった。生涯初の検査経験割合は22.6%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち45.2%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は50.0%を占めた。

東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特にWEBでの申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。

最終年度は総計153キットを配布した。

コミュニティセンターでの対面配布 28 件、WEB での配布が 125 件であった。

アンケートに回答し有効回答であったものは 164 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは対面配布 23 件 (82.1%)、WEB での配布が 97 件 (77.6%) の総計 120 名 (78.4%) であった。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 11 件 (既感染も含む) であり、重複感染が 1 件であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 22 名においては、30 歳未満が 22.7% を占めた。東北地域の居住者が 100.0% であった。生涯初の検査経験割合は 22.7% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 68.2% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 45.4% を占めた。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 58 名においては、30 歳未満が 27.6% を占めた。東北地域の居住者が 100% であった。生涯初の検査経験割合は 24.1% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 53.4% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 62.1% を占めた。

D. 考察

最終年度まで新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査件数が減少し、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあった。

最終年度には 4 地域に会場を設定し、対面配布を実施でき、ZEL 利用者のみならず、初めて検査を受検する人もいた。キット受

け取り者からは、保健所の検査が休止しているため検査を受けられずにいたのでありがたいとの声や WEB 配布ではとりあえず受け取っておいて、期限ギリギリまで使わないという行動も見られた。

また東北地域は広範囲であるため、会場へのアクセスにも課題がある。そのため、自宅・郵便局受取りのニーズが高いことが明らかとなった。

この配布の機会を通じて、キット受け取り者の多様な相談対応につながった。具体的には、PrEP、U=U、陽性判明時の相談、梅毒の治療などの相談が寄せられた。

E. 結論

広域地域である東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 172 キット、2 年度目に 206 キット、最終年度に 153 キットの配布ができ、総計で 531 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 1 件、最終年度が 2 件 (総計で 5 件、1.3%)、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 13 件、最終年度が 11 件 (総計で 32 件、8.9%、いずれも既往歴も含む) であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~97.6% は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3

年間で1名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装

者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.

- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. 日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. *日本エイズ学会 2021 年 東京*.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. *日本エイズ学会 2020 年 千葉*.

G.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	東北	東北	東北	
	CBO	やろっこ	やろっこ	やろっこ	計
	コミュニティセンター	ZEL	ZEL	ZEL	
a 配布数		172	206	153	531
対面配布数			27	28	
WEB配布数			179	125	
b 受検者アンケート回答者数		180	168	164	512
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		133	126	120	379
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	23 (82.1%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	97 (77.6%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		77.3%	61.2%	78.4%	71.4%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		128 (96.2%)	123 (97.6%)	115 (95.8%)	366 (96.6%)
抗体検査結果				*重複感染（1名）	*重複感染（1名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		3 (2.3%)	3 (2.4%)	2 (1.7%)	8 (2.1%)
f 陽性数（割合 f/c）		2 (1.5%)	1 (0.8%)	2 (1.7%)	5 (1.3%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.4 (1.1%)	0.0 (0.0%)	0.9 (0.8%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		9 (6.8%)	5 (4.0%)	4 (3.3%)	18 (4.7%)
h 陽性数（割合 h/c）		8 (6.5%)	13 (10.7%)	11 (9.5%)	32 (8.9%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.4 (1.1%)	6.5 (5.4%)	5.8 (5.0%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		96 (72.2%)	74 (58.7%)	80 (66.7%)	250 (66.0%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	80 (63.5%)	79 (65.8%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	49 (38.9%)	50 (41.7%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

首都圏における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

岩橋恒太 木南拓也、藤原孝大、荒木順（特定非営利活動法人 akta）

星野慎二、宮島謙介（特定非営利活動法人 SHIP）

研究要旨

東京地域では、対面とディスプレイを活用した検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し検査を受けたことがないものに対しては、不安を軽減する工夫を実施した。

初年度に 95 キット、2 年度目に 387 キット、最終年度に 499 キットの配布ができ、総計で 981 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 6 件、最終年度が 6 件（総計で 13 件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が 15 件、2 年度目が 37 件、最終年度が 65 件（総計で 117 件、15.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.7%~99.2%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 3 名であった。

神奈川地域では、貸し会議室等の配布会場を借りるなど密を避けて受付対応を行った。

初年度に 160 キット、2 年度目に 174 キット、最終年度に 225 キットの配布ができ、総計で 559 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 3 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 10 件、2.2%）、梅毒の陽性件数は初年度が 27 件、2 年度目が 24 件、最終年度が 33 件（総計で 84 件、18.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

保健所の検査機会や検査行動が減少する傾向がある中、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所

に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも

新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東京地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査をコミュニティセンターaktaでの対面で配布した。

神奈川地域では、コミュニティセンター、貸し会議室等の会場を借りての対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布し、検査普及における有効性の評価を行う。

B.研究方法

東京地域ではコミュニティセンターaktaにおいて、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイトを開設した。コミュニティセンターでの対面型配布のみとした。公式ホームページ、公式 Twitter で広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。来場者には、①検査キット、②確認検査を受けられる施設情報シート、③郵送検査会社作成 梅毒検査の意味、④サポート情報カード、⑤梅毒啓発資材を配布した。また最終年度は英国の研究チームと連携を行い、デジタルディスペンサーを導入し、対面とデジタルディスペンサーの選べる受け取り方法を行った。

神奈川地域では、対面型配布と WEB 配布 2 パターンで実施した。配布スタッフは、統括予約受付、配布担当を配置することとした。WEB 配布については、アプリ広告、

Twitter での広告を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

1) 東京地域

令和 2 年度は、総計 95 キットを配布した。コミュニティセンターakta での対面配布のみであった。予約サイトを活用し、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 118 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 15 件(既感染も含む)であった。陽性者は病院に受診がつながったことを確認した。検体を郵送した 79 名のうち、71 名 (89.9%) はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答しかつ検体郵送した者 71 名の属性については、35 歳未満が 52.2%を占めた。東京都の居住者が 73.2%であった。生涯初の検査経験割合は 8.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 56.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 33.8%を占めた。

令和 3 年度は、総計 387 キットを配布した。コミュニティセンターakta での対面配布のみであった。今年度も予約サイトを活用し、密を避けて対面での説明を加え対応を行った。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 314 名であった。97.1%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 6 件、梅毒の陽性

件数は 37 件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 260 名の属性については、29 歳以下が 28.8%を占めた。アンケート回答者 588 名においては、東京都の居住者が 63.1%であった。検体を送付した 260 名のうち、生涯初の検査経験割合は 15.0%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 58.5%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.9%を占めた。

最終年度は、すべてコミュニティセンターakta において対面で口頭説明付きで配布を行った。総計 499 キットを配布した。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 389 名であった。99.2%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 6 件、梅毒の陽性件数は 65 件（既感染も含む）であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 297 名の属性については、29 歳以下が 21.5%を占めた。東京都の居住者が 61.3%であった。生涯初の検査経験割合は 15.8%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 51.9%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 46.5%を占めた。

基本的には月曜日に予約制で対面配布を行った。木曜日から日曜日は、予約なしでも可とし、対面またはディスプレイで配布を行った。開館時の配布では、早い時間に受け取りに来る人が多かった（開館前も含む）ことがあげられた。また予約枠と比べ、開館時の受け取りは、対象者の検査についての

準備性が低かった。予約枠は土壇場でのキャンセルが多いことが分かった。開館時は、他の作業や MTG、プログラム等との兼ね合いが難しかった。また説明動画を倍速で見られる方もいたので、何度も見れる説明やフォローを追加する必要があった。グループでの受け取りは準備性が異なり、一緒に説明することが難しい事例があった。シフトスタッフが少ないときには、検査対応中に電話対応や来場者対応等が必要なこともあり、バランスをとることが難しく感じた。また対象者には、説明を集中して聞いていただけなかったり、注意散漫になりながら説明を聞く人もあり、対応が難しかった。以前の利用者では説明をスキップしようとする方もおられた。特に実家暮らしの学生等への資料提示、配布は難しい。対象者からの質問対応では、結果の受け取りまでの時間や、梅毒に関する基本情報、HIV と梅毒で結果は別々に来るか？など様々なものがあつた。聴覚障がい者の方への説明が必要な場面もあり、今後検討が必要であった。ゆうそう検査を使ってみた動画をインスタで上げたいとの声もあつた。メディア対応等が事前にルール化されていると良いと思った。また外国人が日本人と一緒に来場したときにどのように説明するかが難しかった。

2) 神奈川県地域

令和 2 年度は、総計 160 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 75 件、WEB での配布が 85 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 178 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送し

たものは 137 名であった。95.6%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件(うち 1 件は確認検査受検の確認済み)、梅毒の陽性件数は 27 件(既感染も含む)であった。検体を郵送した 137 名のうち、121 名(88.3%)はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 121 名の属性については、35 歳未満が 46.3%を占めた。神奈川県 of 居住者が 60.3%、東京都の居住者が 29.8%であった。生涯初の検査経験割合は 25.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.9%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 52.1%を占めた。

令和 3 年度は、総計 174 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布 61 件、WEB での配布が 113 件であった。貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

アンケートに回答したものは 181 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 130 名であった。98.5%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件、梅毒の陽性件数は 24 件(既感染も含む)であった。アンケートに回答した者 204 名の属性については、40 歳未満が 77.4%を占めた。南関東地域の居住者が 53.4%、東京都の居住者が 33.2%であった。204 名のうち、これまでに検査を受けたことがないものの割合は 26.0%、過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 61.9%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 59.6%を占めた。

最終年度も対面配布と WEB 配布を行った。対面配布で 75 件、WEB 配布で 150 件の総計 225 キットを配布した。キット受け取り者のうち、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 184 名であった。98.4%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 4 件、梅毒の陽性件数は 33 件(既感染も含む)であった。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 147 名の属性については、29 歳以下が 34.4%~41.9%を占めた。東京都の居住者が 26.2%~37.2%、神奈川県を含む南関東の居住者は 73.8%~52.3%であった。生涯初の検査経験割合は 29.5%~31.4%、過去 1 年の検査経験がなかったのは 62.3%~58.1%であった。キットを受け取り、検体を送付したもののうち MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 44.2%~57.0%を占めた。

D.考察

新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査が休止なったところもあり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあったと考えられる。

郵送検査の方法および確認検査を受ける場所への誘導について口頭で説明する必要があると考え、akta では対面で配布する方法をとった。受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができた。私たち自身も受検者がどのような疑問を持っているかを知ることができた。いまだ多くの保健所の検査提供が少なくなっている

こともあり、予約枠はすぐ埋まる状況であった。

今後、どのような層にこのゆうそう検査を届けるかを考え、ターゲットを絞った広報、検査提供を考える必要がある。また、東京都以外にも様々な居住地の MSM がキットを受け取りに来る可能性があり、遠方から取りに来たものについての対応も今後検討する必要がある。

E.結論

東京地域では、対面とディスプレイを活用した検査キットの配布を実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型に限定し検査を受けたことがないものに対しては、不安を軽減する工夫を実施した。

初年度に 95 キット、2 年度目に 387 キット、最終年度に 499 キットの配布ができ、総計で 981 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 6 件、最終年度が 6 件（総計で 13 件、1.7%）、梅毒の陽性件数は初年度が 15 件、2 年度目が 37 件、最終年度が 65 件（総計で 117 件、15.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.7%~99.2%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 3 名であった。

神奈川地域では、貸し会議室等の配布会場を借りるなどし、密を避けて受付対応を行った。

初年度に 160 キット、2 年度目に 174 キット、最終年度に 225 キットの配布ができ、総計で 559 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 3 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 10 件、2.2%）、梅

毒の陽性件数は初年度が 27 件、2 年度目が 24 件、最終年度が 33 件（総計で 84 件、18.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

保健所の検査機会や検査行動が減少する傾向がある中、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にし

た当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌,22(3), 136-146,2020.

- 5) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行:名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. 日本感染症学会誌, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003.

2.学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.
- 2) Benjamin R. Bavinton, Adam Hill, Natalie Amos, Sin How Lim, Thomas Guadamuz, Noriyo Kaneko, Martin Holt, Adam Bourne: Low PrEP uptake among gay, bisexual, and other men who have sex with men in five Asian countries: Results of the Asia Pacific MSM Internet Survey. The 11th IAS - the International AIDS Society - Conference on HIV Science, Virtual, 2021.

- 3) Adam O Hill, Benjamin R Bavinton, Noriyo Kaneko, Lise Lafferty, Anthony Lyons, Stuart Gilmour, Jennifer Power, Gregory Armstrong: Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan. 2021 Joint Australasian Sexual Health and HIV&AIDS Conferences, Virtual, 2021.

3.学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代:乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣:ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士、後藤大輔、舩石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代:成人前期(20歳代)MSMでの性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 6) 金子典代：日本の MSM における HIV 検査の促進、阻害要因に基づく検査拡大ストラテジー. 第 1 回 Fast-Track Cities Workshop Japan, Tokyo, 2021
- 7) 金子典代：MSM を対象とした HIV 検査促進プログラムの変遷と HIV 検査機会拡大にむけた新たな試み. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 8) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa：Studies on mitigating stigma and developing an awareness program targeting a population at risk for HIV infection in Mongolia. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 9) 浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：トランスジェンダーとセクシュアルヘルス. GID 学会第 23 回研究大会・総会, WEB 開催, 2022
- 10) 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史：性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態. 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022

G.知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）東京地域

	年度	R2	R3	R4	
	地域	東京	東京	東京	
	CBO	NPO法人akta	NPO法人akta	NPO法人akta	計
	コミュニティセンター	akta	akta	akta	
a 配布数		95	387	499	981
対面配布数			387	499	
WEB配布数					
b 受検者アンケート回答者数		118	559	731	1,408
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		79	314	389	782
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	389 (78.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)					
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		83.2%	81.1%	78.0%	79.7%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		74 (93.7%)	305 (97.1%)	386 (99.2%)	765 (97.8%)
抗体検査結果			*重複感染（1名）	*重複感染（2名）	*重複感染（3名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		0 (0.0%)	4 (1.3%)	3 (0.8%)	7 (0.9%)
f 陽性数（割合 f/c）		1 (1.3%)	6 (1.9%)	6 (1.6%)	13 (1.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.2 (1.5%)	3.7 (1.2%)	3.9 (1.0%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		3 (3.8%)	11 (3.5%)	14 (3.6%)	28 (3.6%)
h 陽性数（割合 h/c）		15 (19.7%)	37 (12.2%)	65 (17.3%)	117 (15.5%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		6.7 (8.8%)	8.2 (2.7%)	32.6 (8.7%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		71 (89.9%)	260 (82.8%)	297 (76.3%)	628 (80.3%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	219 (69.7%)	231 (59.4%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	190 (60.5%)	182 (46.8%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

表2 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）神奈川県

	年度	R2	R3	R4	計
	地域	神奈川県	神奈川県	神奈川県	
CBO	NPO法人SHIP	NPO法人SHIP	NPO法人SHIP	NPO法人SHIP	
コミュニティセンター					
		-	-	-	
a 配布数		160	174	225	559
対面配布数			61	75	
WEB配布数			113	150	
b 受検者アンケート回答者数		178	181	231	590
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		137	130	184	451
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	65 (86.7%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	119 (79.3%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		85.6%	74.7%	81.8%	80.7%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		131 (95.6%)	128 (98.5%)	181 (98.4%)	440 (97.6%)
抗体検査結果					
		*重複感染 (1名)	*重複感染 (1名)	*重複感染 (3名)	*重複感染 (5名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		4 (2.9%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	5 (1.1%)
f 陽性数（割合 f/c）		3 (2.3%)	3 (2.3%)	4 (2.2%)	10 (2.2%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		3.5 (2.6%)	1.2 (0.9%)	2.9 (1.6%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		4 (2.9%)	1 (0.8%)	2 (1.1%)	7 (1.6%)
h 陽性数（割合 h/c）		27 (20.3%)	24 (18.6%)	33 (18.1%)	84 (18.9%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		9.0 (6.8%)	7.2 (5.6%)	17.8 (9.8%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		121 (88.3%)	107 (82.3%)	147 (79.9%)	375 (83.1%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	88 (67.7%)	137 (74.5%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	76 (58.5%)	113 (61.4%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 教授）

研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二、藤井良樹（ANGEL LIFE NAGOYA）

研究要旨

新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。利用者は初年度 31 名（平均 15.5 名）、2 年度目 57 名（平均 19 名）、最終年度 43 名（平均 10.8 名）であった。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件（総計で 6 件、2.1%~11.1%）、梅毒の陽性件数は初年度が 9 件、2 年度目が 12 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、18.8%~33.3%、いずれも既往歴も含む）であった。

ゆうそう検査では、初年度に 79 キット、2 年度目に 75 キット、最終年度に 132 キットの配布ができ、総計で 286 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 0 件、最終年度が 0 件（総計で 2 件、0.0%）、梅毒の陽性件数は初年度が 7 件、2 年度目が 7 件、最終年度が 18 件（総計で 32 件、15.3%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.0%~96.7%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人はいなかった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。東海地域では一貫して行政と HIV、梅毒検査を民間医療で提供する取り組みを協働で実施した。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよう行政とも連携して進めていくことが望まれる。

ゆうそう検査では WEB 配布と対面配布の両方を実施し、WEB 配布の方が東海地域のみの利用者ではなかったが、初受検の割合も高く、コミュニティセンターの認知も低いことから、リーチしにくい層に届いていた可能性が示唆された。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令

和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東海地域では大阪や中四国で成功を収めてきた民間医療機関を活用した

HIV と梅毒の検査提供（通称クリニック検査）をモデルとし展開することとした。

また自己採血により検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査もコミュニティセンターでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行った。

B.研究方法

1) クリニック検査

大阪や中四国で成功を収めてきたクリニック検査の先行事例を解析し、その方法を参考に実施した。東海地域の中でも、面積が広く、検査アクセスに課題がある岐阜県において民間医療機関を開拓、協力を依頼し、新たな検査プログラムを実施した。また名古屋市内の利便性の高い場所に開所している民間医療機関にも協力を依頼し、実施した。3 年間で岐阜県内において新たにクリニックを 1 件開拓し、総計 4 機関で検査を提供した。

医療機関への協力依頼、Twitter 等 SNS での告知、出会い系アプリや SNS アプリを使った広報は ANGEL LIFE NAGOYA が担当した。受検者には検査提供医療機関で自記式アンケートも実施し、協力を要請した。

また岐阜県と協働で新たに岐阜県内の医療機関での臨時 HIV と梅毒検査提供機会の設定についても検査広報に協力した。

2) ゆうそう検査

東海地域在住の MSM や名古屋市の MSM 向け商業地域(コミュニティセンター rise の所在地) にアクセスできる MSM を

対象に、ポスターやコミュニティペーパーなど紙媒体による広報展開も実施した。対面配布を実施した。コミュニティセンターと商業施設(ハッテン場)にて配布会を実施した。

本研究計画はいずれも名古屋市立大学看護学部倫理審査委員会により実施の承認を得た。

C.研究結果

1) クリニック検査

これまでの東海地域で実施してきた各種の調査データを用い、啓発戦略を策定した。東海地域では、2003 年より名古屋医療センター、ANGEL LIFE NAGOYA、行政(名古屋市) が連携し大規模検査会を実施している。その際にも検査を知るきっかけは SNS、口コミ、出会い系アプリでの広告が最も多いことに鑑み、本プログラムでも MSM 向けの出会い系アプリ広告を活用した。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。

令和 2 年度は 2 クリニックで総計 31 名の利用があり、過去に HIV 検査の経験がないものも 19.4%いた。HIV の陽性件数は 1 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 9 名の陽性が見られた。

令和 3 年度は、新たに三河地域においても新規のクリニックを開拓し協力を得たて、3 クリニックで総計 57 名の利用があった。2 期にわけて実施し、HIV の陽性件数は 2 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 12 名の陽性が見られた。

最終年度は 4 クリニックで岐阜市内のク

リニックは6名の利用者、名古屋市のクリニックは30名、豊橋市内のクリニックは7名の利用があった。HIVの陽性件数は3件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて11名の陽性が見られた。

とうかいクリニック検査 実施結果

2020年度	
2021/1/12 -2/26	受検者31名（HIV陽性1名、梅毒陽性9名）
2021年度	
第1期 2021/8/1 -9/30	受検者48名（HIV陽性1名、梅毒陽性9名）
第2期 2022/1/31 -2/26	受検者9名（HIV陽性1名、梅毒陽性3名）
2022年度	
2022/6/1 -7/30	受検者43名（HIV陽性3名、梅毒陽性11名）

3年間の合計 受検者131名（HIV陽性率4.6%、梅毒感染率24.4%）
--

2) ゆうそう検査

令和2年度は、総計79キットを配布した。コミュニティセンターriseでの対面配布が64件、WEBでの配布が15件であった。アンケートに回答したものは71名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは60名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は7件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した71名のうち、49名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者49名の属性については、35歳未満が55.1%を占めた。愛知県の居住者が89.8%であった。生涯初の検査経験割合は16.3%であった。過去1年の検査経験がなかった人は全体のうち71.4%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は30.6%を占めた。

令和3年度は、総計75キットを配布した。コミュニティセンターriseでの対面配

布が15件、WEBでの配布が60件であった。アンケートに回答したものは75名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは57名であった。HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は7件（既感染も含む）であった。郵送検査利用者の属性については、対面配布かつID連結の同意を得た14名においては、30歳未満が14.3%を占めた。東海地域の居住者が100.0%であった。生涯初の検査経験割合は7.1%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち21.4%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は35.7%を占めた。WEB配布かつID連結の同意を得た31名においては、30歳未満が25.8%を占めた。東海地域の居住者が58.1%であった。生涯初の検査経験割合は35.5%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち80.6%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は51.7%を占めた。

最終年度は、総計132キットを配布した。コミュニティセンターriseやゲイ向け商業施設に出向いての対面配布が40件、WEBでの配布が92件であった。アンケートに回答したものは120名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは101名であった。HIV陽性件数は0件、梅毒の陽性件数は18件（既感染も含む）であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつID連結の同意を得た22名においては、東海地域の居住者が100.0%、生涯初の検査経験割合は4.5%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち59.1%であった。MSM対象の予防啓発やコ

コミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 22.7%を占めた。

また WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 38 名においては、東海地域の居住者が 60.5%、生涯初の検査経験割合は 31.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 71.1%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 60.5%を占めた。

D. 考察

愛知県と名古屋医療センターが行っている無料 HIV・性感染症検査会にコロナ禍以前の過去 5 年は毎年 600~700 名の MSM が受検していた。クリニック検査やゆうそう検査いずれも、資材は作成したが配布直前から緊急事態宣言や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛や時間短縮の影響で、主要なゲイバーがほとんど営業しないこととなり、紙媒体配布の効果は薄くなった。

東海地域では新たにクリニック検査を 3 年間試行した。最終的に MSM や HIV に理解のある医療機関を、名古屋で 1 機関、三河地域で 1 機関、と岐阜市内で 1 機関、岐阜県内の 1 クリニックの協力を得た。今後も協働関係を継続していくことが重要であると考え。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよう行政とも連携して進めていくことが望まれる。

またゆうそう検査キットの配布を継続していくなかで、受検意識が高い層は東海地域クリニック検査を利用していることもあり、アウトリーチの範囲を広げていく必要がある。

他研究班による検査提供や、本研究班の

クリニック検査の時期とかぶったなかで検査機会の促進に取り組んでいることから、他の検査提供機会と時期を調整しつつ、必要な層に訴求していくことが求められる。

E. 結論

新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。利用者は初年度 31 名 (平均 15.5 名)、2 年度目 57 名 (平均 19 名)、最終年度 43 名 (平均 10.8 名) であった。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件 (総計で 6 件、2.1%~11.1%)、梅毒の陽性件数は初年度が 9 件、2 年度目が 12 件、最終年度が 11 件 (総計で 32 件、18.8%~33.3%、いずれも既往歴も含む) であった。

ゆうそう検査では、初年度に 79 キット、2 年度目に 75 キット、最終年度に 132 キットの配布ができ、総計で 286 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 0 件、最終年度が 0 件 (総計で 2 件、0.0%)、梅毒の陽性件数は初年度が 7 件、2 年度目が 7 件、最終年度が 18 件 (総計で 32 件、15.3%、いずれも既往歴も含む) であった。検体を郵送した人のうち、93.0%~96.7%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人はいなかった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。東海地域では一貫して行政と HIV、梅毒検査を民間医療で提供する取り組みを協働で実施した。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよ

う行政とも連携して進めていくことが望まれる。

ゆうそう検査では WEB 配布と対面配布の両方を実施し、WEB 配布の方が東海地域のみの利用者ではなかったが、初受検の割合も高く、コミュニティセンターの認知も低いことから、リーチしにくい層に届いていた可能性が示唆された。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

- 5) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003.

2.学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. *The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection (HIV Glasgow 2020)*, Glasgow, 2020.
- 2) Benjamin R. Bavinton, Adam Hill, Natalie Amos, Sin How Lim, Thomas Guadamuz, Noriyo Kaneko, Martin Holt, Adam Bourne: Low PrEP uptake among gay, bisexual, and other men who have sex with men in five Asian countries: Results of the Asia Pacific MSM Internet Survey. *The 11th IAS - the International AIDS Society - Conference on HIV Science, Virtual*, 2021.
- 3) Adam O Hill, Benjamin R Bavinton, Noriyo Kaneko, Lise Lafferty, Anthony Lyons, Stuart Gilmour, Jennifer Power,

Gregory Armstrong: Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan. 2021 Joint Australasian Sexual Health and HIV&AIDS Conferences, Virtual, 2021.

3.学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代:乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣:ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代:成人前期(20歳代)MSMでの性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦:NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第34回日本エ

イズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 6) 金子典代:日本の MSM における HIV 検査の促進、阻害要因に基づく検査拡大戦略. 第1回 Fast-Track Cities Workshop Japan, Tokyo, 2021
- 7) 金子典代:MSM を対象とした HIV 検査促進プログラムの変遷と HIV 検査機会拡大にむけた新たな試み. 日本エイズ学会シンポジウム, 第35回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 8) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Studies on mitigating stigma and developing an awareness program targeting a population at risk for HIV infection in Mongolia. 第35回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 9) 浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史:トランスジェンダーとセクシュアルヘルス. GID 学会第23回研究大会・総会, WEB 開催, 2022
- 10) 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史:性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022

G.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- 1.特許取得 なし

2.実用新案登録 なし

3.その他 なし

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	愛知	愛知	愛知	
	CBO	ANGEL LIFE NAGOYA	ANGEL LIFE NAGOYA	ANGEL LIFE NAGOYA	計
	コミュニティセンター	rise	rise	rise	
a 配布数		79	75	132	286
対面配布数			15	40	
WEB配布数			60	92	
b 受検者アンケート回答者数		71	90	120	281
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		60	57	101	218
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	26 (65.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	75 (81.5%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		75.9%	76.0%	76.5%	76.2%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		58 (96.7%)	53 (93.0%)	96 (95.0%)	207 (95.0%)
抗体検査結果					*重複感染（0名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (1.0%)	2 (0.9%)
f 陽性数（割合 f/c）		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.7%)	2 (3.5%)	6 (5.9%)	9 (4.1%)
h 陽性数（割合 h/c）		7 (11.9%)	7 (12.7%)	18 (18.9%)	32 (15.3%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.5 (4.2%)	1.2 (2.2%)	8.5 (8.9%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		49 (81.7%)	45 (78.9%)	60 (59.4%)	154 (70.6%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	45 (78.9%)	74 (73.3%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	38 (66.7%)	46 (45.5%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：町登志雄（MASH 大阪）、宮田りりい（SWASH/MASH 大阪）

陰山朋久、宮階真紀（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

研究要旨

大阪地域ではコロナ禍の対応で混乱しつつ、大阪市と協働し、コミュニティセンターdistaでの検査会『dista でピタッとちえっくん』、大阪府と協働としクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』を継続実施した。また新たにゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら実施した。大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。

初年度に 142 キット、2 年度目に 200 キット、最終年度に 124 キットの配布ができ、総計で 466 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 2 件（総計で 6 件、2.6%）、梅毒の陽性件数は初年度が 14 件、2 年度目が 10 件、最終年度が 17 件（総計で 41 件、17.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、96.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

dista でピタッとちえっくんでは令和 2 年度 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人（0.9%）、梅毒陽性者 15 人（13.2%）であった。令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人（1.4%）、梅毒陽性者 20 人（13.9%）であった。最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加した。HIV 新規陽性者 1 人（0.6%）、梅毒陽性者 8 人（4.7%）であった。

¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんでは、令和 2 年度 I 期が 224 人利用し、HIV 陽性者 4 人、梅毒陽性者 42 人、B 型肝炎陽性者 4 人、II 期は 126 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 28 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。令和 3 年度は I 期が 120 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 30 人、B 型肝炎陽性者 0 人、II 期は 113 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 21 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。最終年度は、I 期が 134 人利用し、HIV 陽性者 0 人、梅毒陽性者 33 人、B 型肝炎陽性者 2 人、II 期は 131 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 38 人、B 型肝炎陽性者 2 人であった。

新型コロナウイルス感染症に伴う自粛や休業に対応しながらのゆうそう検査であったが、他の検査機会を失うことなく、進行した。今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、大阪地域では自己採血による検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査のコミュニティセンターdistaでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

また大阪地域では大阪市と協働して、コミュニティセンターdistaでの検査会『dista でピタッとちえっくん』、大阪府と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』も継続して実施した。

B.研究方法

コミュニティセンターdistaでの検査会『dista でピタッとちえっくん』の方法は大阪市と協働し、過去に報告した内容と同様の方法で行った。曜日を固定し、隔月で 6 回の検査を行った。外国人向けに通訳も配置し、気軽に立ち寄れる雰囲気配慮した。採血の際や結果受取時の不安等、検査の前や後の相談を行っており、初めての人やこれまで情報を届けられなかった層においては性感染症に関する知識や情報を提供できる

機会も設けた。

大阪府、大阪健康安全基盤研究所と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』は広報を担った。

郵送検査キットは、コミュニティセンターdistaでの受け取り、イベント会場などでの受け取り、WEB での受け取りの 3 つの方法で配布した。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

1) dista でピタッとちえっくんの概要

令和 2 年度は 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人 (0.9%)、梅毒陽性者 15 人 (13.2%) であった。

令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人 (1.4%)、梅毒陽性者 20 人 (13.9%) であった。

最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加した。HIV 新規陽性者 1 人 (0.6%)、梅毒陽性者 8 人 (4.7%) であった。

2) ¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんの概要

令和 2 年度は I 期が 224 人利用し、HIV 陽性者 4 人、梅毒陽性者 42 人 (うち既往 13 人)、B 型肝炎陽性者 4 人であった。II 期は 126 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 28 人 (うち既往 18 人)、B 型肝炎陽性者 1 人であった。

令和 3 年度は I 期が 120 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 30 人、B 型肝炎陽性者 0 人であった。II 期は 113 人利用し、

HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 21 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。

最終年度は、I 期が 134 人利用し、HIV 陽性者 0 人、梅毒陽性者 33 人(新規 5 人)、B 型肝炎陽性者 2 人であった。II 期は 131 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 38 人(新規 2 人)、B 型肝炎陽性者 2 人であった。

3) ゆううそう検査

令和 2 年度は総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名(79.3%)はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。

令和 3 年度は総計 200 キットを配布し、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 83 人であった。そのうち 97.6%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件(推定新規陽性率 1.7%)、梅毒の陽性件数は 10 件(既感染も含む)(推定新規陽性率 1.7%)

であった。検体を郵送した 83 人のうち、60 人はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 22 名においては、30 歳未満が 18.2%を占めた。近畿地域の居住者が 95.5%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 13.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 63.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 22.7%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 38 人においては、30 歳未満が 15.8%を占めた。近畿地域の居住者が 89.5%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 15.8%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 34.2%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 39.5%であった。

最終年度は dista 来場者への配布は 21 人、イベント会場では 29 人が受け取り、WEB では 74 人に配布し、総計 124 キットを配布した。このうち、郵送検査会社での受付数は対面配布が 18 件(36.0%)であり、WEB 配布が 49 件(66.2%)であった。

アンケートに回答したもので有効回答であったのは 125 人であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 67 人であった。そのうち 98.5%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件(推定新規陽性率 3.0%)、梅毒の陽性件数は 17 件(既感染も含む)(推定新規陽性率 13.4%)であった。

連動可能であった人数は少ないが、郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 14 人においては、30 歳未満が 7.1%を占めた。近畿地域の居住者が 85.7%であった。生涯初の検査経験割合は 0.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 14.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 28.5%を占めた。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 27 人においては、30 歳未満が 37.0%を占めた。近畿地域の居住者が 70.4%であった。生涯初の検査経験割合は 29.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 70.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 44.4%を占めた。

D. 考察

dista でピタッとちえっくんの利用者は新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた令和 2 年度から年々増加している。¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんの利用者は令和 2 年度の I 期はコロナ禍以前の 200 人台であったが、2 期は少なく、その後緩やかに増加している。ゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら、3 年間の利用率は 50.9%となった。

コミュニティにとっては検査の選択肢を増やすことに繋がっているものの、利用者の増減があり、今後継続していくためにはニーズを把握する必要がある。

大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている

可能性がある。とはいえ、コミュニティセンターdistaがないと個の活動の継続性は見込めず、クリニック検査や dista でピタッとちえっくんでも HIV 陽性の割合が維持されていることから、感染リスクがある人の中でも検査機会の選択肢の利用ニーズは異なる可能性がある。新型コロナ感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

E. 結論

大阪地域ではコロナ禍の対応で混乱しつつも、大阪市と協働して、コミュニティセンターdistaでの検査会『dista でピタッとちえっくん』、大阪府と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』も継続して実施した。また新たにゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら実施した。大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。

初年度に 142 キット、2 年度目に 200 キット、最終年度に 124 キットの配布ができ、総計で 466 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 2 件（総計で 6 件、2.6%）、梅毒の陽性件数は初年度が 14 件、2 年度目が 10 件、最終年度が 17 件（総計で 41 件、17.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、96.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3

年間で2名であった。

新型コロナウイルスに伴う自粛や休業に対応しながらのゆうそう検査であったが、他の検査機会を失うことなく、進行した。今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象

とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.

- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史.日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-.*日本エイズ学会 2022年 浜松*.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. *日本エイズ学会 2022年 浜松*.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. *日本エイズ学会 2021年 東京*.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. *日本エイズ学会 2020年 千葉*.

G.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	大阪	大阪	大阪	
	CBO	mash大阪	mash大阪	mash大阪	計
	コミュニティセンター	dista	dista	dista	
a 配布数		142	200	124	466
対面配布数		69	132	50	
WEB配布数		73	68	74	
b 受検者アンケート回答者数		103	92	103	298
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		87	83	67	237
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	18 (36.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	49 (66.2%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		61.3%	41.5%	54.0%	50.9%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		84 (96.6%)	81 (97.6%)	66 (98.5%)	231 (97.5%)
抗体検査結果		*重複感染（1名）	*重複感染（1名）	*重複感染（2名）	
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		1 (1.1%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)
f 陽性数（割合 f/c）		2 (2.3%)	2 (2.4%)	2 (3.0%)	6 (2.6%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.5 (2.9%)	1.4 (1.7%)	2.0 (3.0%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.1%)	4 (4.8%)	0 (0.0%)	5 (2.1%)
h 陽性数（割合 h/c）		14 (16.3%)	10 (12.7%)	17 (25.4%)	41 (17.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		6.4 (7.4%)	1.3 (1.7%)	9.0 (13.4%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		69 (79.3%)	60 (72.3%)	41 (61.2%)	170 (71.7%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	59 (71.1%)	57 (85.1%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	44 (53.0%)	37 (55.2%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：和田秀穂（川崎医科大学血液内科学 教授）

研究協力者：高田清式（愛媛大学医学部）、

新山賢（HaaT えひめ/BRIDGE プロジェクト）

研究要旨

中四国地域で、ゆうそう検査キットの配布とクリニック検査を実施した。岡山県では初年度より、中国・四国地域でも 2 年度目よりクリニック検査も継続した。「岡山県もんげ一性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」の同時開催とし合計して、2021 年度は 96 名の利用で、HIV 陽性 6 名（陽性率 6.3%）、梅毒陽性 21 名（陽性率 21.9%）の結果となった。

ゆうそう検査キットの配布は WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。初年度に 124 キット、2 年度目に 300 キット、最終年度に 302 キットの配布ができ、総計で 726 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 5 件（総計で 7 件、1.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 13 件、2 年度目が 27 件、最終年度が 31 件（総計で 71 件、14.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、97.1%~100.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令

和 2 年 2 月からの新型コロナ感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、中国・四国地域の MSM を対象に、自己採血による検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布と WEB にて配布を行った。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間を限定して配布し、検査普及における有効性の評価を行

うことを目的とした。

また、地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。

B.研究方法

中国・四国地域には MSM 対象の予防啓発を主体としたコミュニティセンターがないため、WEB による広報と申し込み受け付けを設置し、自宅等に郵送した。

広報は Twitter で行った。ゲイアプリでのバナー広告（ロケーション広告）も行った。また今回は WEB サイト (<http://sh-check.net/yuusou/>) も新設した。

メッセージとして、「中四国地方在住のゲイ・バイ男性を対象とした郵送検査キットの無料配布中です。検査項目は HIV と梅毒。キットは WEB アンケートへの回答でゲットできます。自宅などで、郵送検査で健康チェック！」とし、検査キットの使用方法は動画で確認するよう促した。

岡山県の先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中四国地域における医療機関等を活用した新たな HIV 検査機会を拡大する。受検者へのアンケート調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行う。

初年度はコロナ禍の影響により、岡山県の継続事業のみの展開となったが、今年度は中四国での展開を再開することを試みた。民間医療機関(クリニック)を活用した HIV と梅毒検査の提供（せとうちクリニック検査）も岡山県、広島県、愛媛県、香川県で実施した。実施期間は、第 1 弾：2021 年 8 月

17 日～9 月 30 日（岡山県もんげー性病検査のみ）、第 2 弾：2022 年 1 月 17 日～2 月 28 日（せとうち性病クリニック検査）とし、MSM 限定で、岡山市内 3 か所、倉敷市内 3 か所、松山市内 2 か所、高松市内 1 か所のクリニックと協働した。検査項目は HIV・梅毒（結果は 1 週間後以降）とし、予約不要で自己負担を 1,000 円とした。広報は、中四国地方のゲイ商業施設など約 50 施設で冊子を制作し配布したほか、特設 WEB サイトを開設し、ゲイ男性向け出会い系アプリ・ゲイ出会い系サイトでのバナー広報、Twitter プロモーションでの広告を行った。本年度は、保健所、拠点病院、クリニック検査で行われている受検者アンケート結果をもとに、特に岡山県での成果について受検者の特性を比較検討した。

倫理審査

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会、川崎医科大学に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

1) ゆうそう検査キットの配布

令和 2 年度は総計 124 キットを配布した。コミュニティセンターはないため、すべて WEB での配布であった。アンケートに回答したものは 141 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 84 名であった。郵送検査利用者のすべてが結果サイトにログインし閲覧していた。

HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 13 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 84 名のうち、59 名（70.2%）はアン

ケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 59 名の属性については、35 歳未満が 57.7%を占めた。四国の居住者が 35.7%、岡山県が 16.9%、広島県が 23.7%であった。生涯初の検査経験割合は 32.2%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 78.0%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 54.2%を占めた。

令和 3 年度はアンケートに回答した人は 364 名であり、有効回答は 351 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 201 名であった。郵送検査利用者のうち、97.5%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件(推定新規陽性率 0.8%)、梅毒の陽性件数は 27 件(既往歴も含む)(推定新規陽性率 3.3%)であった。

検体を郵送した 201 名のうち、121 名はアンケート結果との連結に同意していた。郵送検査利用者の属性については、WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 121 名においては、30 歳未満が 36.4%を占めた。中国・四国地域の居住者が 60.3%、近畿地域が 28.1%、九州地域が 10.8%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 40.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 68.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 63.7%であった。

最終年度はゲイ向けアプリケーションでのバナー広報開始 4 日目で予定配布数まで残り僅かにまで達したため広報を停止。予定していた広報予算を検査キット購入に振り分け、10 セットを追加し再度コミュニテ

ィペーパーと SNS を中心に広報を開始した。

総数 302 セットを配布した。事前のアンケートに回答した人は 333 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 208 名であった。郵送検査利用者のうち、97.1%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 5 件(推定新規陽性率 2.4%)、梅毒の陽性件数は 31 件(既往歴も含む)(推定新規陽性率 8.7%)であった。

郵送検査利用者の属性については、WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 115 名においては、30 歳未満が 37.4%を占めた。中国・四国地域の居住者が 92.2%、近畿地域が 5.2%、九州地域が 2.6%であった。

これまでの検査経験がなかったものの割合は 33.9%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 64.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 60.0%であった。

WEB 配布では昨年度よりも需要増を見越して 310 セット配布予定数を増やし、配布を終了した。受け取りが好調であり、その様子も鑑み配布数を増やすよう調整した。コロナ禍のなか保健所検査が大幅減となっているが受検ニーズは一定あることが予想できる。コロナ禍の中で受けやすい検査環境を整えていくことが求められていると考える。

2) クリニック検査

岡山県ではクリニック検査(岡山県もんげー性病検査)を継続し、夏季に 50 件の利用があり、HIV 陽性 6 名、梅毒陽性 14 名であった。冬季は、「岡山県もんげー性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」の同

時開催とし、もんげー性病検査の利用は 32 名あり HIV 陽性 0 名、梅毒陽性 7 名で、せとうち性病クリニック検査の利用は 14 名あり HIV 陽性 0 名、梅毒陽性 0 名であった。これらを合計して、2021 年度は 96 名の利用で、HIV 陽性 6 名（陽性率 6.3%）、梅毒陽性 21 名（陽性率 21.9%）の結果となった。コロナ禍前の同時開催であった 2019 年度が 90 名の利用で、HIV 陽性 2 名（陽性率 2.2%）、梅毒陽性 11 名（陽性率 12.2%）であったことと比較すると、2021 年度はコロナ禍であっても受検者数の減少はなく、HIV および梅毒ともに受検者の陽性率が高かったことから、保健所等で検査を受けられないあるいは検査控えをしていた MSM に、このクリニック検査の情報が届き検査促進につながったと解釈された。

また、2020 年 12 月までの保健所・拠点病院・クリニックでの受検者アンケートの解析を進めた。2020 年度は全国的に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、HIV 抗体検査受検者数が減少していると言われていた。その点をふまえて受検者動向について考える必要がある。

D.考察

コミュニティセンターのない中国・四国地域では他地域と比べ人員的な面で脆弱であり、WEB での広報と配布を継続している。WEB 広報では対象となる地域以外に拡散することもあり、周囲の近畿地域、九州地域からの利用もあったが、最終年度には 9 割程度が対象となる中四国地域の居住者の利用であり、各地域で連動して予防啓発に取り組むことの重要性を示唆していると思われる。

中国四国地域では、クリニックでの検査機会も継続され、MSM コミュニティでの生涯の HIV 抗体検査受検割合は他地域より低い割合で推移していることが報告されている。コミュニティセンターがないため安定的な活動が難しい現状もあるが、本研究で実施している郵送検査キット配布の取り組みの利用者では、これまでの受検経験のない人の割合が 34%と他地域より高く、検査受検が必要な層に訴求している可能性を示唆している。

E.結論

中四国地域で、ゆうそう検査キットの配布とクリニック検査を実施した。岡山県では初年度より、中国・四国地域でも 2 年度目よりクリニック検査も継続した。「岡山県もんげー性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」の同時開催とし合計して、2021 年度は 96 名の利用で、HIV 陽性 6 名（陽性率 6.3%）、梅毒陽性 21 名（陽性率 21.9%）の結果となった。

ゆうそう検査キットの配布は WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。初年度に 124 キット、2 年度目に 300 キット、最終年度に 302 キットの配布ができ、総計で 726 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 5 件（総計で 7 件、1.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 13 件、2 年度目が 27 件、最終年度が 31 件（総計で 71 件、14.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、97.1%~100.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年

間で2名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.
- 2) 和田秀穂：日常診療で必要な HIV 感染症の知識. 高知県医師会雑誌 25(1): 59-67, 2020.
- 3) 松下修三, 村上正巳, 天野景裕, 今村顕史, 加藤眞吾, 川畑拓也, 貞升健志, 立川夏夫, 塚田訓久, 東條尚子, 長島真美, 福武勝幸, 松岡佐織, 吉村和久, 和田 秀穂, 日本エイズ学会, 日本臨床検査医学会, 「診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020」ワーキンググループ.
- 4) 診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020 版(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会標準推奨法) 日本エイズ学会誌 23(1) : 39-43, 2021.

2.学会発表 (国内)

- 1) 白井麻子, 中尾綾, 西田拓洋, 吉川由香, 海面敬, 吉武亜紀, 赤松祐美, 池谷千恵, 中村 美保, 川田通子, 佐藤讓,

武内世生, 窪田良次, 尾崎修治, 和田秀穂, 千酌浩樹, 山下光, 山之内純, 高田清式. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 中間報告. 日本エイズ学会誌 22(4) : 487, 2020.

- 2) 飯塚暁子, 藤原千尋, 山崎由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会. 医療ソーシャルワーカーを対象とした HIV/AIDS 啓発教育の効果に関する検討 HIV/AIDS に関する講義の聴講前後のアンケート調査を通して. 日本エイズ学会誌 22(4) : 478, 2020.
- 3) 近藤陽介, 福田寛文, 安井晴之進, 近藤英生, 和田秀穂. 第 82 回日本血液学会学術集会. HIV 治療中に慢性骨髄性白血病および食道がんを発症した 1 例. 臨床血液 61(10) : 1539, 2020.
- 4) 西田拓洋, 中尾綾, 白井麻子, 吉川由香, 海面敬, 赤松祐美, 谷英俊, 池谷千恵, 中村美保, 川田通子, 武内世生, 佐藤讓, 窪田良次, 尾崎修治, 和田秀穂, 千酌浩樹, 河邊憲太郎, 山之内純, 高田清式. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会. 中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 中間報告(2). 日本エイズ学会誌 23(4) : 479, 2021.
- 5) 和田秀穂. 第 11 回日本性感染症学会中国四国支部総会. 行政, CBO, 医療機関が協働した HIV・梅毒検査受検勧奨の成果～岡山を中心としたせとうち地域での試み～. 岡山. 2021 年 1 月 16 日

- 6) 和田秀穂,第 34 回日本性感染症学会学術集会, 共催セミナー, コロナ禍でも見逃さない! HIV 感染症早期診断のコツ, WEB 開催, 2021 年 11 月 28 日
- 7) 和田秀穂,第 12 回日本性感染症学会中国四国支部総会, コロナ禍でも HIV 感染症を早期発見するための診療上の工夫, 2022 年 1 月 15 日

G.知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし
- 3.その他 なし

表 1 郵送検査利用者の概要 (令和 2 年度 -R 3 年度)

	年度	R2	R3	R4	
	地域	中国・四国	中国・四国	中国・四国	
	CBO コミュニティセンター	HaaTえひめ /BRIDGE	HaaTえひめ /BRIDGE	HaaTえひめ /BRIDGE	計
a 配布数		124	300	302	726
対面配布数					
WEB配布数			300	302	
b 受検者アンケート回答者数		141	351	333	825
c 利用者数; 郵送検査会社での受付数		84	201	208	493
対面配布数(c対面/a対面)					
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	208 (68.9%)	
利用率計; 配布数に占める利用者数(c/a)		67.7%	67.0%	68.9%	67.9%
d 結果確認者数; 結果画面のログイン記録 (割合 d/c)		84 (100%)	196 (97.5%)	202 (97.1%)	482 (97.8%)
抗体検査結果				*重複感染 (2名)	*重複感染 (2名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数 (割合 e/c)		0 (0.0%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	3 (0.6%)
f 陽性数 (割合 f/c)		0 (0.0%)	2 (1.0%)	5 (2.4%)	7 (1.4%)
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *		0.0 (0.0%)	1.6 (0.8%)	5.0 (2.4%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数 (割合 g/c)		2 (2.4%)	7 (3.5%)	6 (2.9%)	15 (3.0%)
h 陽性数 (割合 h/c)		13 (15.9%)	27 (13.9%)	31 (15.3%)	71 (14.9%)
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *		4.3 (5.2%)	6.4 (3.3%)	17.6 (8.7%)	
i 追跡可能者数; 無料ID使用者数 (割合 i/c)		59 (70.2%)	121 (60.2%)	115 (55.3%)	295 (59.8%)
j 事後アンケート回答者数 (割合 j/c)		()	131 (65.2%)	129 (62.0%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数 (割合 k/c)		()	87 (43.3%)	79 (38.0%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に乘じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

九州における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：船石翔馬、灰来人

（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部/コミュニティセンターHACO）

古賀康雅（博多区保健福祉センター）

南留美、高濱宗一郎（九州医療センター）

研究要旨

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 104 キット、2 年度目に 186 キット、最終年度に 193 キットの配布ができ、総計で 483 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 8 件、2.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 6 件、2 年度目が 19 件、最終年度が 28 件（総計で 53 件、16.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~98.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

この 3 年間でゲイコミュニティ向けのアウトリーチや取り組みが再開し、各地域との連携も復活した。本研究で実施したゆうそう検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながることでいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に

伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

九州地域では、自己採血による検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査キットをコミュニティセンターで対面と WEB で配布した。特にコミュニティセンターの近隣以外に居住する者や山口県も

重要なターゲット層であることから WEB 配布を本年度も導入した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とする。

B.研究方法

コミュニティセンターにおいて、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイトを開設した。コミュニティセンターでの対面型配布と WEB 配布を行った。公式ホームページ、公式 Twitter、HACO スタッフ個人 Twitter、コミュニティセンター周辺のゲイ向け商業施設へのチラシ配布（ゲイバー、ハッテン場、ショップ等の約 60 店舗）、スタッフのゲイ向けマッチングアプリアカウントで広報した。

対面配布については、検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。今回は WEB 配布も行うため、特設サイトでの説明の充実を図った。特に九州・山口各県も対象視野に入れ、各県の保健所の検査情報を掲載した。また、陽性判明時に郵送検査会社が発行する病院への紹介状が一部病院では無効となるため、熊本大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院に対応を依頼し、受け入れの承諾を得た。

対面配布時のガイダンス資料を作成し、希望者の細かな疑問等に対応した。また、コロナまん延時期でもあるため、検査希望者に配布後にコロナ感染が判明した場合、連絡等の協力をお願いした。

また WEB での申し込みも実施し、特設ページを作り、受検希望者が受付から郵送までスムーズに行えるようにした。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和 2 年度は総計 104 キットをコミュニティセンターにおいて対面方式のみを使い配布した。アンケートに回答したものは 106 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 68 名(65.4%)であった。そのうち 97.1%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 6 件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した 68 名のうち、64 名はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送者の属性については、35 歳未満が 68%を占めた。福岡県の居住者が 87.5%であった。生涯初の検査経験割合は 20%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 64%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 25%を占めた。

令和 3 年度は総計 186 キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは 217 名であり、有効回答は 197 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 117 名であった。そのうち 95.8%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件(推定新規陽性率 1.2%)、梅毒の陽性件数は 19 件(既往歴も含む)(推定新規陽性率 3.6%)であった。

検体を郵送した 68 名のうち、83 名はアンケート結果との連結に同意していた。郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 20 名においては、30 歳未満が 50.0%を占めた。九州地域の居住者が 95.0%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 15.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 30.0%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 20.0%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 63 名においては、30 歳未満が 25.4%を占めた。九州地域の居住者が 69.8%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 30.2%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 58.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 52.4%であった。

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせ実施し予定数をすべて配布した。2 年目の試みであったが、入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

最終年度は、総計 193 キットを配布した。対面での配布数は 20 件、WEB 配布数は 173 件であった。事前にアンケートに回答したものは 182 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 142 名であった。そのうち 98.6%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 4 件（推定新規陽性率 2.1%）、梅毒の陽性件数は 28 件（既往歴

も含む）（推定新規陽性率 11.3%）であった。検体を郵送した 142 名のうち、91 名はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 9 名においては、30 歳未満が 44.4%を占めた。九州地域の居住者が 100%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 22.2%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 33.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 44.4%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 82 名においては、30 歳未満が 30.5%を占めた。九州地域の居住者が 81.7%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 22.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 53.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 48.8%であった。

配布時の反応では、保健所で定期的に受けていた人の受検が多かった。質問としては PrEP に関するものが多く、HIV 陽性になったらどうなるのかというものは少なかった。

D.考察

新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査の提供件数が落ち込みは続いた。保健所やクリニックでの受検経験はあるが、郵送検査は生涯初という受検者が 2 割程度であった。WEB 配布では、広範囲からの利用ニーズがあることが示されたが、おおむね対面配布と WEB 配布の利用者の属性に

著変はなく、郵送検査キットの無料配布キャンペーンは多くの MSM に対して新たな検査機会の提供になったのではないかと考えられる。

受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができる点が対面の強みである。一方 WEB 型配布は福岡市以外のニーズがある層にも届くことができる強みがある。

対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

E. 結論

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

新型コロナ感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 104 キット、2 年度目に 186 キット、最終年度に 193 キットの配布ができ、総計で 483 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 8 件、2.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 6 件、2 年度目が 19 件、最終年度が 28 件（総計で 53 件、16.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~98.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

この 3 年間でゲイコミュニティ向けのアウトリーチや取り組みが再開し、各地域との連携も復活した。本研究で実施したような検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, *コンドーム使用との関連*. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表（国内）

- 1) 塩野徳史.日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-.日本エイズ学会 2022年 浜松.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. 日本エイズ学会 2022年 浜松.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. 日本エイズ学会 2021年 東京.

- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. 日本エイズ学会 2020年 千葉.

G.知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし
- 3.その他 なし

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	計
	地域	福岡	福岡	福岡	
	CBO コミュニティセンター	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	
a 配布数		104	186	193	483
対面配布数			36	20	
WEB配布数			150	173	
b 受検者アンケート回答者数		106	197	182	485
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		68	120	142	330
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	10 (50.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	132 (76.3%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		65.4%	64.5%	73.6%	68.3%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		66 (97.1%)	115 (95.8%)	140 (98.6%)	321 (97.3%)
抗体検査結果			*重複感染 (2名)	*重複感染 (3名)	*重複感染 (5名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		1 (1.5%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	3 (0.9%)
f 陽性数（割合 f/c）		1 (1.5%)	3 (2.5%)	4 (2.8%)	8 (2.4%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.1 (1.6%)	1.4 (1.2%)	3.0 (2.1%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.5%)	4 (3.3%)	3 (2.1%)	8 (2.4%)
h 陽性数（割合 h/c）		6 (9.0%)	19 (16.4%)	28 (20.1%)	53 (16.5%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.1 (3.2%)	4.2 (3.6%)	15.7 (11.3%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		64 (94.1%)	83 (69.2%)	91 (64.1%)	238 (72.1%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	88 (73.3%)	103 (72.5%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	66 (55.0%)	73 (51.4%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に掛けて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

沖縄県における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：(R2-R3) 健山正男 (琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学)

(R4) 仲村秀太 (琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学)

研究協力者：新里尚美、金崎慶太 (沖縄県感染症診療ネットワーク・コーディネーター)

玉城裕貴 (nankr 沖縄)

宮城京子、前田サオリ (琉球大学病院・看護部)

山本和子 (琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学)

研究要旨

研究Ⅰ：クリニック検査の促進に関する研究

新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で県内保健所における HIV 検査数は激減した。そのため、保健所に替わる新たな検査提供体制の整備が急務である。本年度は、民間医療機関において HIV・梅毒検査を実施し、HIV 検査を希望する MSM のニーズアセスメントと検査促進を行うことを目的とした。対象を MSM とし、沖縄県内の 5 医療施設で実施した。検査キャンペーン広告を出した。具体的には MSM が利用するマッチングアプリ、SNS、YouTube、沖縄県ホームページ、nankr 沖縄のホームページ及び、県内新聞社の取材を通じて広報した。にアンケート記入と引き替えにクーポン提供 (検査料を 1,000 円に割引) する内容である。

令和 2 年度は、募集枠 50 人に対して 46 人が応募した。最終的には 39 人が受診した。HIV 陽性は 0 人、梅毒 2 人陽性であった。令和 3 年度は、前年度と異なり本事業の専用予約サイトを立ち上げ、サイト内でアンケート回答をした者へ ID 番号発行し、その後の予約、検査、結果すべてを ID 番号で行う匿名性が担保された検査を実施した。募集枠 80 人に対して、78 人の応募があり、最終的には 26 人が受検した。アンケート回収率は 97.5% (78/80) であった。99% が日本人で、58% が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は 26% であるが、既検査歴者でも 2 年以上経過した者は 39% であった。過去 6 カ月間に 2 人以上の複数のパートナーとセックス歴の有る者は 72% であった。PrEP 経験者は 12% であった。スクリーニング検査結果は HIV 陽性 1 件、梅毒は 0 件であった。最終年度は、募集枠 50 人に対して、46 人の応募があり、最終的には 25 人が受検した。アンケート回収率は 97.5% (78/80) であった。65% が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は 11% であった。PrEP 経験者は 10% であった。スクリーニング検査結果は HIV 陽性 0 件、梅毒は 0 件であった。

本島中南部を中心に検査受検者が同じく中南部の医療機関での検査希望を示した。特定の医療機関での検査希望が突出して多く、交通の利便性がその要因として考えられた。コロナ禍において保健所の代替として民間医療機関が HIV 検査を安定的に提供できる場として示された一方で、初回検査受検者の割合は少なく、このグループへの検査アクセスを高める対策が必要だと考えられた。PrEP への関心は高く正確な情報提供と同時に HIV 検査の動機づけにも活用できると考えられた。

研究Ⅱ：郵送検査の促進に関する研究

沖縄地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。コミュニティの感性を活かした広報やコミュニティセンターからの情報提供を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設して実施できた。新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 77 キット、2 年度目に 148 キット、最終年度に 210 キットの配布ができ、総計で 435 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件（総計で 6 件、1.9%）、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 23 件、最終年度が 31 件（総計で 62 件、20.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、92.3%~98.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

この 3 年間で各地域との連携しつつ、本研究で実施したゆうそう検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。特に沖縄では離島や山間部に居住する MSM が行きやすい拠点を県内でいくつか設定する必要もある。

研究Ⅰ： クリニック検査の促進に関する研究

A.研究目的と背景

COVID-19 の影響により、沖縄県内でも保健所における HIV 検査件数が激減した。その一方で 2021 年における HIV/AIDS 患者数は人口 10 万人あたり全国ワースト 1 位であり、HIV 検査の中止、縮小が続く沖縄県内の保健所に代わり、民間医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備することは喫緊の課題であった。そこで、HIV 感染者の 97%を占める MSM を対象とし、匿

名性を担保した上でアンケートを実施、収集、解析することにより、保健所代替機関として、民間医療機関がなり得るための必要な要因を調査することを目的とした。

B.研究方法

沖縄県内の 5 カ所の病院・クリニックにおいて、MSM を対象とした性病検査 (HIV、梅毒) を行った。研究対象者の募集は、専用サイト、ゲイ向けアプリ、SNS 等を用いた。

受検希望者は専用サイトにアクセスし、匿名アンケート回答後に自動返信メールにて ID 番号を取得させた。冒頭に研究の説明

とエントリー基準を設け基準は下記のように設定した。

- ① 18 歳以上の者
- ② MSM を自認する者
- ③ 研究期間中に性感染症検査を希望する者
- ④ アンケート回答、提出に同意できる者

これらを満たした者にクリニック・病院の予約、受付時に必要となる ID 番号発行し、検査日には ID 番号を提示し、研究対象者は 1,000 円で性病検査を受けることができるとした。

C.研究結果

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的なパンデミックの影響で沖縄県内の保健所における HIV 検査が 80% も減少し、特に 3 月以降はほぼ完全に停止した。保健所検査機能を民間医療施設が代替するために必要な要因を検証した。

対象を MSM とし、沖縄県内の 5 医療施設で実施した。検査キャンペーン広告を出した。具体的には MSM が利用するマッチングアプリ、SNS、YouTube にアンケート記入と引き替えにクーポン提供 (検査料を 1,000 円に割引) する内容である。募集枠 50 人に対して 46 人が応募した。最終的には 39 人が受診した。HIV 陽性は 0 人、梅毒 2 人陽性であった。

沖縄県保健所 6 カ所の総計で 1 日あたりの受検者は平均 4.6 人であり、今回の応募人数はほぼそれに匹敵した。

令和 3 年度は沖縄県内では保健所における HIV 検査数は、2021 年 1 月～6 月の期間中は 0 件であった。そこで保健所の代替として民間医療機関にて HIV・梅毒検査を提

供するために必要な要因を調査した。

HIV・梅毒検査を希望し、MSM と自認する者を対象に、沖縄県内の 5 医療機関で行った。令和 3 年度は、前年度と異なり本事業の専用予約サイトを立ち上げ、サイト内でアンケート回答をした者へ ID 番号発行し、その後の予約、検査、結果すべてを ID 番号で行う匿名性が担保された検査を実施した。広報は検査実施期間の 1 か月前より、ゲイ向けアプリを主軸に、SNS、沖縄県ホームページ、nankr 沖縄のホームページ及び、県内新聞社の取材を通じて広報した。

募集枠 80 人に対して、78 人の応募があり、最終的には 26 人が受検した。アンケート回収率は 97.5% (78/80) であった。99% が日本人で、58% が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は 26% であるが、既検査歴者でも 2 年以上経過した者は 39% であった。過去 6 カ月間に 2 人以上の複数のパートナーとセックス歴の有る者は 72% であった。PrEP 経験者は 12% であった。スクリーニング検査結果は HIV 陽性 1 件、梅毒は 0 件であった。

COVID-19 の影響もあり、予約に占める実受検者の割合は、前年度の 78% から大幅に低下した。これは COVID-19 患者数が全国 1 蔓延し、自粛が強化されたことが原因と考えられる。PrEP 経験有無は、有りが 12% と予想外に県内でも 1 割強が実施している実態が明らかとなり、今後は医療機関における PrEP 実施者に対する外来診療の受け入れ体制も必要となると予想された。キャンペーン告知初期から予約枠が速やかに埋まった理由として、保健所での HIV 検査が中止、縮小されても、強い HIV 検査のニーズがあったことが示唆する。また専用

サイトで時間、場所に関係なく匿名性を保った形で ID 取得ができることが要因として考えられた。

最終年度は、民間医療機関において HIV・梅毒検査を実施し、HIV 検査を希望する MSM のニーズアセスメントと検査促進を行うことを目的とした。

HIV・梅毒検査を希望し、かつ MSM と自認する者で、県内 5 つの民間医療機関における対面検査を実施した。本事業の専用予約サイトでアンケート回答をした者へ ID 番号発行し、その後の予約、検査、結果すべてを ID 番号で行う匿名性が担保された HIV 及び梅毒検査を実施した。広報は検査実施期間の 1 か月前より、ゲイ向けアプリを主軸に、SNS、沖縄県ホームページ、nankr 沖縄のホームページ及び、県内新聞社の取材を通じて広報した。

募集枠 50 人に対して、46 人の応募があり、最終的には 25 人が受検した。アンケート回収率は 97.5% (78/80) であった。65% が那覇市以南の居住者であった。初回検査歴は 11% であった。PrEP 経験者は 10% であった。スクリーニング検査結果は HIV 陽性 0 件、梅毒は 0 件であった。

本島中南部を中心に検査受検者が同じく中南部の医療機関での検査希望を示した。特定の医療機関での検査希望が突出して多く、交通の利便性がその要因として考えられた。コロナ禍において保健所の代替として民間医療機関が HIV 検査を安定的に提供できる場として示された一方で、初回検査受検者の割合は少なく、このグループへの検査アクセスを高める対策が必要だと考えられた。PrEP への関心は高く正確な情報提供と同時に HIV 検査の動機づけにも活用で

きると考えられた。

D.考察

最終年度のクリニック検査では 30~40 代の参加者が最も多かった。その一方で 20 歳代や 50 歳代の受検者は少なかった。県内ではこれらの年代でも新規 HIV 陽性者が例年報告されていることから、若年者層及び壮年層への検査アクセスの向上が必要だと示唆された。また、検査受付 46 人に対して実際に検査を受けたのは 26 人 (56%) に留まった。受付に対する実際の検査受検数の乖離に関して詳細な解析は困難だが、一部の参加者からは COVID-19 罹患のため受検できなかったとのフィードバックが寄せられた。

令和 3 年度の調査と同様に、受検者の居住地は本島中南部地域を中心としていた。検査希望医療機関を選択するにあたっては、交通の利便性が最も重要視されていることが明らかになった。多くの MSM が居住していると考えられる本島中南部に HIV 検査外来を担う民間医療機関を配置することが重要であると考えられた。

今回、初めて HIV 検査を受けたと回答したものは全体の 11% 程度に留まった。医療機関などでの対面検査にアクセスできないグループが県内に存在するのか本研究では明らかにできないが、図 4、図 5 に示すように郵送検査のニーズが一定の割合で認められるため、これらの検査法を駆使した取り組みが必要であると考えられた。

PrEP への関心は高く 39 人 (84%) が PrEP 服用を検討すると回答した。実際に 5 人 (10%) は過去 6 ヶ月以内の PrEP 使用を認めている。PrEP 導入が定期的な HIV

検査受検の動機になると考えられるため、PrEP に対する正確な情報提供の中に HIV 検査の重要性について言及すべきであると考えられた。

既存のゲイ商業施設に加え、特定のゲイ向けアプリを中心とする SNS へのアクセスが多いことが今回の調査で明らかになった。これらの媒体とコミュニティセンターが協同していくことが重要であると考えられた。

E. 結論

民間医療機関での対面型 HIV 検査は、コロナ禍における保健所の代替として需要があることが示された。MSM が多く居住すると考えられる本島中南部を中心として民間医療機関との連携を今後も継続するために、行政の支援が不可欠と考えられた。

対面検査では検査受検できないグループに対して郵送検査など新たな手段を用いてのアプローチが必要であると考えられた。また、PrEP に関する正確な情報提供や見守り体制の構築も課題であると考えられた。

倫理審査

本研究は琉球大学「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」より承認された(2022年1月-)学内研第459号

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Collins S, Namiba A, Sparrowhawk A, Strachan S, Thompson M, Nakamura H. Late diagnosis of HIV in 2022: Why so little change? HIV Med. 2022 Dec;23(11):1118-1126.

研究 II：郵送検査の促進に関する研究

A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は7割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、沖縄地域の MSM を対象に、自己採血により検体を送付しスクリーニング検査を受ける郵送検査をコミュニティセンターでの配布と WEB にて配布を行った。

MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間を限定して配布し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とした。

B. 研究方法

コミュニティセンターでは、本検査に関する説明事項を含むメッセージを mabui の公式 HP と公式 Twitter 等の SNS で配信した。

また、mabui メンバーをモデルに広報用のポスターを制作した。メッセージとして、「今は外出を控えている！誰にも会わずに検査を受けたい！自宅や郵便局でキットを受け取りたい！そんな方は是非、今回の郵送検査キット配布会をご利用ください。」と twitter 等で広報した。

郵送検査キットを受け取る方法は、1) 郵送検査キット配布の予約をする(メール・電

話、コミュニティセンターmabui での受け取りの場合は予約不要)。2) 簡単な検査の説明を受ける。3) アンケートに答える。4) 郵送検査キットを受け取る。5) 自宅で採血。6) 郵送する。7) 検査会社のホームページにアクセスして結果を見る。の 7 段階とした。

郵送検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとったものもいたが、今年度は他地域の取り組みを参考に、WEB での配布も行い、自宅または郵便局で受け取れるようにした。

倫理審査

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和 2 年度は総計 77 キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは 50 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 42 名(54.5%) であった。そのうち 92.9%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 8 件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した 50 名のうち、29 名はアンケート結果との連結に同意していた。検体郵送者の属性については、35 歳未満が 68%を占めた。福岡県の居住者が 87.5%であった。生涯初の検査経験割合は 20%であった。過去 1 年の

検査経験がなかったものは全体のうち 64%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 25%を占めた。

令和 3 年度は総計 148 キットを配布した。アンケートに回答したものは 130 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 117 名(79.1%) であった。そのうち 92.3%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 23 件(既感染も含む)であった。検体を郵送した 117 名のうち、29 名はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 38 名においては、30 歳未満が 23.7%を占め、沖縄県の居住者が 92.1%であった。生涯初の検査経験割合は 18.4%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 68.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 42.1%を占めた。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 40 名においては、30 歳未満が 42.5%を占め、沖縄県の居住者が 82.5%であった。生涯初の検査経験割合は 22.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 62.5%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 50.0%を占めた。

郵送検査の受検利用者では、沖縄県在住者が高く、地域での配布のニーズが示唆された。初受検者の割合も高く、新規の HIV スクリーニング陽性率 1.3%、梅毒は推定スクリーニング陽性率 5.7%であり、感染リスクの高い層にリーチしていることが考えら

れる。したがって、陽性になった場合の受診行動の促進への取り組みも重要であると考ええる。

最終年度は総計 210 キットを配布した。アンケートに回答したものは 150 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 153 名であった。そのうち 98.0%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件、梅毒の陽性件数は 31 件（既感染も含む）であった。検体を郵送したもののうち 25 名はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 25 名においては、30 歳未満が 24.0%を占め、沖縄県の居住者が 92.0%であった。生涯初の検査経験割合は 20.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 56.0%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 44.0%を占めた。「保健所でなかなか受けられないのでよかった。」「次年度もまた受けたい。」などの反応があった。

D.考察

新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査機会は減少し、定期的に保健所で検査を受けていた人が、郵送検査キットを受け取りに来ることがあった。

郵送検査の受検利用者の回答数は少なく限界があるものの、沖縄県在住者が高く、地域での配布のニーズが示唆された。

郵送検査キットを受け付ける場合には、通常郵便局留めもできるが、地方地域では郵便局でも知り合いがいる可能性もあり、断られることもあった。離島や山間部に居

住する MSM が行きやすい拠点を県内でいくつか設定する必要もある。

一方で、新規の HIV スクリーニング陽性率 2.0%、梅毒は推定スクリーニング陽性率 18.3%であり、感染リスクの高い層にリーチしていると考えられる。したがって、陽性になった場合の受診行動の促進への取り組みも重要である。

E.結論

沖縄地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。コミュニティの感性を活かした広報やコミュニティセンターからの情報提供を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設して実施できた。

新型コロナ感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 77 キット、2 年度目に 148 キット、最終年度に 210 キットの配布ができ、総計で 435 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件（総計で 6 件、1.9%）、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 23 件、最終年度が 31 件（総計で 62 件、20.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、92.3%~98.0%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

この 3 年間で各地域との連携しつつ、本研究で実施したよう検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後

も重要である。特に沖縄では離島や山間部に居住する MSM が行きやすい拠点を県内でいくつか設定する必要もある。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*,

23(1), 18-25, 2021.

- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. 日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. *日本エイズ学会 2021 年 東京*.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. *日本エイズ学会 2020 年 千葉*.

G.知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -R3年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	沖縄	沖縄	沖縄	
	CBO	nankr沖縄	nankr沖縄	nankr沖縄	計
	コミュニティセンター	mabui	mabui	mabui	
a 配布数		77	148	210	435
対面配布数			59	60	
WEB配布数			89	150	
b 受検者アンケート回答者数		50	122	38	210
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		42	117	153	312
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	37 (61.7%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	116 (77.3%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		54.5%	79.1%	72.9%	71.7%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		39 (92.9%)	108 (92.3%)	150 (98.0%)	297 (95.2%)
抗体検査結果		*重複感染（1名）		*重複感染（1名）	*重複感染（2名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		1 (2.4%)	1 (0.9%)	1 (0.7%)	3 (1.0%)
f 陽性数（割合 f/c）		1 (2.4%)	2 (1.7%)	3 (2.0%)	6 (1.9%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.5 (3.6%)	1.5 (1.3%)	3.0 (2.0%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		3 (7.1%)	6 (5.1%)	1 (0.7%)	10 (3.2%)
h 陽性数（割合 h/c）		8 (20.5%)	23 (20.7%)	31 (20.4%)	62 (20.5%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		5.6 (14.3%)	5.7 (5.1%)	27.8 (18.3%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		29 (69.0%)	78 (66.7%)	26 (17.0%)	133 (42.6%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	74 (63.2%)	106 (69.3%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	49 (41.9%)	16 (10.5%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Noriyo Kaneko, Nigel Sherriff, Michiko Takaku, Jaime H Vera, Carlos Peralta, Kohta Iwahashi, Toshihiko Ishida, Massimo Mirandola	Increasing access to HIV testing for men who have sex with men in Japan using digital vending machine technology.	International journal of STD and AIDS	33(7)	680-686	2022
Hill A.O., Bavinton B.R., Kaneko N, Lafferty L, Lyons A, Gilmour S, Armstrong G.	Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan.	Archives of Sexual Behavior	50(7)	3103-3113	2021
金子典代, 塩野徳史	コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性のHIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連	日本エイズ学会誌	23(2)	78-86	2021
宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代	MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から	日本エイズ学会誌	23(1)	18-25	2021
金子典代, 塩野徳史	MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義	日本エイズ学会誌	22(3)	136-146	2020

Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa	Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan	AIDS Care		DOI: 10.1080/ /095401 21.2020. 1837339	2020
細川陸也,井上洋士,戸ヶ 里泰典,阿部桜子,片倉直 子,若林チヒロ,大木幸 子,山内麻江,塩野徳史, 米倉佑貴,大島岳,高久陽 介	HIV 陽性者の子どもを持つことへの 思いと医療機関における相談・ 情報提供の実状	日本エイズ 学会誌	22(2)	87-99	2020
Nakagiri I, Wada H.	A Follow up Study on False- Positive Preoperative HIV Test Results.	Health Science Journal.	14: 713	DOI: 10.3664 8/1791- 809X.14 .2.713	2020
Nanako Oshiro KK, Shoji Tsuneyoshi, Masao Tateyama, Ryo Zamami, Hitoshi Uehara, Jiro Fujita and Yusuke Ohya	Changes in serum concentration of rilpivirine in an HIV-infected patient treated with a combination therapy of hemodialysis and peritoneal dialysis.	Renal Replacement Therapy.	6. 33.		2020.
Nakamura H, Tateyama M, Tasato D, et al.	Human immunodeficiency virus- associated pulmonary sarcoidosis in a Japanese man as a manifestation of immune reconstitution inflammatory syndrome.	Clinical case reports.	8:	3440-4.	2020
金子典代,塩野徳史, 本間隆之,岩橋恒太, 健山正男,市川誠一	地方都市在住の MSM(Men who have sex with men)における調査 時点までと過去 1 年の HIV 検査経 験と関連要因	日本エイズ 学会誌	21(1)	34-44	2019.2

塩野徳史,市川誠一, 金子典代,佐々木由理	都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性	厚生指標	65(5)	35-42	2018.5
金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一	成人男性の HIV 検査受検,知識,HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態 - 2009 年調査と 2012 年調査の比較-	日本エイズ学会誌	19(1)	16-23	2017